明治三十八年十一月二十四日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾貳號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第百九十二號目次

名家演壇

歐米各國婦人の情態　藥學博士　丹波敬三君

茨城支會講話

催眠術に就て　婦人科　秋元洸二君

季節料理

治庖會本部教場主事　安西こま子

ほうれ草天然酢●八頭胡麻味噌かけ●蠣二杯酢●蠣のフライ●甘藷うすあんかけ●鮭の味淋燒●ボイルドサーモン●生鮭の大根煮●しこの燒味噌あへ●甘煮くろまめのこ八ツ頭芋●吸物賽形鮭

大家談叢（つゞき）

醫學博士　瀨川昌耆君

●健康兒の標準●發育不良の生兒●體量●生齒と病氣●增量の割合●生齒と素人考●生齒困難の時節●齒牙の生へ方●充分の安眠

新報

●脚氣の新療法　小久保博士の説

●海水の効力　泰西醫の説

質疑欄

●流產の豫防●肺を診察する理由●肺病者飲食物と居室の消毒●山形の阿部どのへ●鼻かぜ氣管支カタル

中外彙報

●日本赤十字社功績●癩病院擴張●癩病豫防取締●豫備病院患者●同仁會●戰役と精神病分院の閉鎖●醫術開業試驗●韓國の痘苗製造●秋季淸潔法●傳染病研究所●香港の日本醫●神戸の黑死病●深川の有菌鼠●精神病者の園遊會●慈惠醫院園遊會●赤十字總會●新案家族合せ披露

大日本婦人衞生會記事

一本會懇親會景況

一大隈伯爵演說●バック外人挨拶

一高崎、茨城、新潟支會景況

一入會轉居寄送册子等

●十二月例會告知

來十二月二日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校に於て本會本年の納會を開き左の講話有之候此段會員諸氏に告ぐ

演題　　　　講師

一脂肨病の話　　醫學士　橋本左武郎君

一女子と衞生の關係に就て　　明治病院長 醫學士　鳥居春洋君

明治三十八年十一月

大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんとは皆ともに希はざるはあらじされども心身健康にあらざれば此生を活ならしめんこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看 [illegible]

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則（明治廿二年十二月改正）

[illegible]

◎役員姓名

総裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下

会長　侯爵鍋島夫人　榮子

副会長　高居　作子

幹事（いろは順）

嶋田　[illegible]子
仝　羽田　[illegible]子
仝　岡田　[illegible]子
仝　高木　う[illegible]子
仝　山本　[illegible]子
仝　松平　[illegible]子
仝　三浦　[illegible]子
仝　石川　[illegible]子
仝　岩下　[illegible]子
仝　高田　[illegible]子
仝　長谷川　仲子
評議員　仁禮　[illegible]子
仝　西尾　[illegible]子
仝　秋元　[illegible]子
仝　土方　[illegible]子
仝　錦山　[illegible]子
仝　岡田　[illegible]子
仝　小川　[illegible]子
仝　加藤　[illegible]子
仝　男爵夫人　片山　[illegible]子
仝　吉武　[illegible]子
仝　丹波　[illegible]子
仝　高橋　[illegible]子
仝　田村　[illegible]子
仝　相馬　[illegible]子
仝　男爵夫人　山部　[illegible]子
仝　中　[illegible]子

仝　子爵夫人　松平　[illegible]子
仝　三宅　[illegible]子
仝　宮木　[illegible]子
仝　宮下　[illegible]子

◎支部長　千葉、長崎、山形、宇都宮、東京、高崎、光岡

◎本会特別賛成員

（いろは順に於て記載せし諸氏）

[illegible]



日本婦人社會の爲め盡瘁せんとの
篤志を以て此肖像を寄せられたる

前米國公使　ミセス、バック夫人

名家演壇

歐米各國婦人の情態

藥學博士　丹波敬三君演説
側速記事務所員速記

歐米各國婦人の情態などと大した表題でありますが其の實は一向長く逗留して居りませぬで、極く素通りを致しましたのと、それから或國は全く唖と聾で通つて參りましたので、情態などと云つては迚も分らう筈はございませぬ。多分……多分どころではない、確かに間違があらうと思ひますが、併し私が唖と聾で通つて來た即ち私一個の判斷だけを御話したいと存じます、どうぞ其のお積りで餘り重きを措かないで御聽き下さるやうに願ひます。

今日は運動と食物の事に付いて重もに御話し申上げたいと思ふて居りました。何故ならば私は今度歐洲を巡廻いたしまして、自分の學科以外の事では運動と食物の事に付いて、多少頭を痛めて調べて參つたのでございます。それに付て御話をしたいと存じまするが、まだ其の一部分の纏めが付きませぬから、それは後日又御話を致しませうが、今日は婦人の情態の大體と、婦人の食物並に運動と云ふ事に付て、お話を申上げたいと存じます。

最初横濱を出まして、米國へ渡り、さうして英吉利から歐羅巴の方へ參つたものでありますから、先づ米國の方からして御話を致しますが、私は英語がマルデ出來ませぬ。それで唯だ自分の食ひたいとか飲みたいとか手眞似くらゐでありますから、米國の婦人社會に參つて、さうして其の情態を觀察すると云ふやうなことは到底出來ない譯でありますが、併し幸に萬國博覽會が聖路易にありました。是には日本の紳士方が大分澤山おいてになつて居つた。其の人等の御紹介に依りまして、彼方へ呼ばれ此方へ呼

ばれして、大分方々へ呼ばれ歩きましたからして、言葉は分らずながらも、見た所の情態だけはア、てはなからうか、斯うてはなからうかと云ふ位の判斷を着けて來たものでありますから、それに付て第一にお話を致します。

私の觀察に依りますると、米國の婦人は餘り自由主義が發達し過ぎて居るやうに思ひます。それで男子が婦人を尊敬することは、米國は餘程激しいことと認めました。煙草は無論。酒を飲む時も、婦人席では其の許しが無ければ、誰一人盃に手を附ける者もありませぬ。總て其の他の事柄も皆萬事さう云ふやうな有樣であります。それだけに尊敬を受けるだけ、又それだけ矢張り義務を盡して居られるやうに思はれます。それで何分新開地でありますから、極く上流の人もあれば、又至つて下流の人もありますさうして服裝の如きに至つても、非常に華美な服裝をして居る人もあれば、又一向構はずに居る者もあります。おしなべて言ひますると英吉利とか、佛蘭西とか、獨逸とか云ふやうに、服裝などにはさうひどくやかましく言はれぬやうであります。それは夜會とか何とかへ行けばやかましいものもありますけれども、併し總體おしなべて言ひますると、往來に粗末な服を着て居つた所が、それを見て評をすると云ふやうなことは一向ありませぬ。他の國では隨分それがあるやうに見受けます。それと同じことに男子の方も總て服裝の如きものは餘りやかましく言はない中には、燕尾服を着て居る者もあれば、其の他の服を着て居る者もある。私などは友人の注意に依りまして、日本で拵へた服を彼方へ行つて着ると犬が吠えるから、日本では拵へないで西洋へ行つて拵へる方が宜い。友人の青山醫學博士の如きはこちらで拵へたものは彼方へ行つてから荷物にして積送つて、彼方で更に拵へたと云ふやうな話であります。なるたけ此方で拵へないで行けと云ふやうなことで其の積りで日本で拵へたジャッケンを二枚持つて行つたぎりで、他に衣類は何も持つて行きませぬ。亞

米利加へても行つて拵へやうと思つた所が、亞米利加は非常に高い所で、英吉利や獨逸などと比較にならぬ程に衣服類は高い所でありますから、迚も亞米利加のやうな所では衣服は氣張れない。それで日本では私の衣類と云へば隨分汚ない方の有名なものでありますが、其の衣類でもつて亞米利加を通つて來たけれども、亞米利加ではさしてやかましくも何とも言はない。或は陰で言つて居つたかも知れませぬが、日本などでは隨分或る場合には陰でも面と向つても、いろ／＼言ふ者がありますけれども、亞米利加あたりでは隨分さう云ふ場合があつても、何か言ふだらうと思つても、一向何も言ひませぬ。又私などと甲乙の無いやうな衣類を着て居る者も澤山ありました。そこに至つては餘程自由のやうてあります。

そこでそれは何處から來るかと云へば、重もに婦人社會から來るのであります。それで日本などでは男ても服に付て多少注意する人は、何とか彼とか言ひますけれども、其の言ふ源は皆御婦人社會から出て來る。所が米國の婦人社會では一向さう云ふ事は無いやうてあります。好い衣類を着られる身分の者は好い衣類を着るが宜し、好い衣類を着られない身分の者は普通のもので宜い。衣服は汚なくとも自分一人の國民たる所の權利は同じことだと云ふやうに思ふて居る。さうして服の如きものでも何でも十分に出來る人は立派にしますが、出來ないからと云つてさしてそれを輕蔑するとか擯斥するとか云ふやうな風習は見えぬやうてあります。此の點は餘程結構な事だと私は思ひます。

それから婦人社會の一番の快樂は旅行のやうてあります。彼方へ旅行し此方へ旅行する。又金滿家の人などは日本へまでもやつて來ると云ふやうなことて餘程旅行が好きらしい。それで旅行を致しますに、旅館でも何でも總べてア、云ふ客商賣の所は、皆家族若くは夫婦の旅行に付て一番便利のやうに設計がしてある。ホテルなどに泊りましても、一人で泊る

からと云つて部屋へ入りましても寢臺が一つ置いてあると云ふやうなホテルはありませぬ。必ずいつても大きな寢臺が二つ列べてあります。それから食事をしに行つても、一人前で宜いからと云つても、其の一人前と云ふのが大きなもので、私などは隨分大食でありますが、迚も食べきれませぬ。それで同行者と二人でもつて一人前取つて、さうして半分づゝ食べる。それで英吉利、獨逸あたりで一人前食べて居るよりは餘計あります。それでありますから二人て旅行をすると、料理を一人前取りまして、さうして料理は一人前で宜いが、皿は二枚持つて來い。庖丁も肉差も二人前だけ持つて來いと誂へて、そこで切つて一人前を二つに分けて食べる。それは何だか日本の風習から考へると、どうも料理屋へ行つて一人前だけ誂へて、お茶碗だけ二つ取寄せてはをかしいやうですが、亞米利加では決してそれが恥かしいこともなく、又珍らしいこともない。立派な人が皆それをやります。さう云ふ工合に出來て居る。其の代りに價は一人前と云つてもなか〳〵高いのでありますから、一人で旅行をすると、其の部屋に泊つて一人で矢張りそれだけの當り前の代を拂つて、さうして料理を一人で食べても矢張りそれだけ拂はなければならぬ。それが二人で旅行をすると、一人前の價を拂つて同じ部屋で二人泊ることが出來る。料理も一人前を二人で食べることになります。又大勢の家族で五人も居るものであると、二人前取つて、料理は二人前が宜いが皿は五人前持つて來いと言つても少しも差支ありませぬ。さう云ふやうな工合で旅行するにも非常に便利であります。尤も價は高いです。旅館へ泊つても、博覽會のありました所では部屋一つ七弗と云ふので、丁度日本の十四圓に當る。食事も何も無しで、部屋一つ借切るのが一日十四圓それで一人でも二人でも同じことである。それだから同行者と二人で借りることになる。所で私などより早く行かれた穗積さんとか北里さんとか云ふ人は七弗で借りて居られた部屋が、私などが行つた時は

氣候が好くなるし、博覽會などの爲に十三弗に上げられた。部屋代ばかりが丁度日本の二十六圓に當るひどく驚いたです。併し其の設備が唯今申した通りに、夫婦づれで行くか、或は親子で行くか、朋友と二人づれで行くか、又は家族を伴れて行くか、兎も角も二人以上で行けば亞米利加の旅行は大變に安く付きます。亞米利加で一人旅をするのは不經濟の絕頂であります。それであるから一人旅をする者は殆ど無いやうな工合で、或は男の獨身者でゞもあれば仕方がないが、それも朋友でも誘ひ合つて二人で行くとか、或は妻のある者は夫婦づれで行くとか、或は家族を伴れて行くとか、さう云ふやうにして旅行をするのが一番便利である。總ての設計がさう云ふ工合になつて居りますし、又今日の總體の設備等が皆成るたけさう云ふ大勢の旅行をするに付て安く上るやうな工合に出來て居ります。先づさう云ふ有樣であります。

そこで前刻ちよつと申しました自由主義と云ふのは是は米國の一種の尊敬すべき性質であつて、何事に依らず皆四民平等であつて、非常に自由主義を取つて居る國でありますから、私どもが豫々聞いて居つたよりは、尙ほ彼方へ行つて見ますると、其の主義の甚しいのに驚いたのは、ワシントンへ行つて內務省、大藏省と云ふやうな役所を見に行く、さうすると誰にでも見せるのです、即ち拜觀したいと云ふて手札を出して置くと幾らでも見せる。それが省內をズッと見せるだけなら宜いが、私なら私が大藏大臣とか內務大臣であつて、斯うして事務を執つて居る其の机のグルリを旅人が、日本で言へば赤ゲットの連中がグル／＼と廻つて行く。さうして先方で見たらばお辭儀をして行くし、さもなければお辭儀もしないで行く。それでありますから此處は大臣の室、次官の室と云ふやうに、皆仕事をして居る机のグルリを廻つて行く。さう云ふ有樣で幾ら何でも餘り自由過ぎる、勿體ないと實は思つた位であります。それから大統領などでも、一日前に名札を出して置い

て、明日握手をして戴きたいと云ふと、誰でも其の名札を出して置いた者が行つて、お目に懸つて握手が出來る。それから握手は要らぬと云ふのであつたら、大統領の部屋を見たいと云へば、其の口にても見られると云ふやうな譯で、誠に自由になつて居ります。それに準じて生活上の事までも皆さう云ふ鹽梅であります。婦人でも決して依賴心と云ふ事が無く、自分は自分一人で生活して行かなければならぬ又やつて行けると斯う自信して居るやうであります其の事は先づ此の位にして置きます。

それから今度は英吉利へ渡りました。所が英吉利は又餘程違ひます。英吉利は亞米利加から見ますと、同じ自由を貴ぶ國ではありますけれども、併し亞米利加で謂ふ四民平等と云ふやうな事はありませぬで餘程模樣が違つて居ります。從つて婦人の衣服の如きものでも、又平素の社會の交際に於きましても、餘程趣が變つて來て居ります。それで何となしに英吉利は古風を存して、餘程重々しく出來て居ります

それで日曜とか云へばチャンと一定の日曜の服でなければ外へ出ない。それからして男子でも日曜日はシルクハットを被つてでなければ出ない。平日でも大抵の人はシルクハットを被つて居る。けれども平日シルクハットを被つて居らぬで、山高とか鳥打と云ふやうなイキな帽子を被つて居る者でも、日曜日にはシルクハットを被つて居る。それが皆其の通りに行はれて行く、それで宗教の方の側でもありませうが、朝九時頃からして十一時半十二時頃までは、大抵皆寺參りをする。それには婦人は男子と一緒に行く。其の間は地下鐵道其の他市內に在るものは止つて仕舞ふ。寺參りの時間だけは鐵道が休みです。それで寺の事が濟んで鐘がガン〱鳴ると、其の時から汽車や何かゞ出る。それであるから我々他國人は詰らない。何處へ行く所もなく、博物館であらうと、繪畫共進會のやうなものであらうと、何處でも皆閉ぢて仕舞つて何一つ開けてないのでありますから、家の中に寢ころんで居るより外に仕樣がない

部屋の中でウロついて居るのを見れらると、あいつはゴウツクバリだ、日曜にゴロ〳〵して居ると言はれるから、閉め切つて寐て居るとか、或は有難くなくとも御寺へ行つて有難い顔をして居るとか、どつちかにしなければならぬ。それであるから餘程むづかしいのであります。

それで日曜日はさう云ふ譯でありますが、併し平日は非常に働くのであります。それで服の如きものも上中下と云ふ各々の階級があるやうに思はれます。階級は何處にでもありますけれども、併し日本ではおさんどんだからと云つて、自分が立派な衣類を持つて居つたならば、それを着て外へ出ることはならぬと云ふこともなし、それを着たからとて人が笑ふと云ふやうなことはない。けれども英吉利ではさうでないやうです。上中下の階級があつて、下級の人がどう云ふ算段をして好い衣服を着るとか、又は他から借りて來てこれを着ても、其の階級に相應しないやうな衣服を着て歩くと云ふことになると、餘程他からして排斥されるやうである。縱んば好い衣服が出來ても着られないやうな工合に見受ける。是は前申した通り私は僅かの滯在でありますから、確かな事は言へませぬが、どうも私の觀察だけに依るとさう云ふやうに見えます。これと同じ事に今度は上級の人は如何なる場合であつても、粗末な衣類を着て外へ出ることが出來ない。あの人がア丶云ふ物を着たからして、もう是は中等の社會の組に落ちて仕舞つたとか、或は下級の社會に下つて仕舞つたらうと云ふやうなことで、再び好い衣服が出來てそれを着ても、上等の社會の交際をして貰ふことが出來ないやうに見受けます。それでありますから自づと上中下の區別があつて、其の區分に應じてやつて行く亞米利加にはそれがありませぬが、英吉利にはこれがあるやうであります。

それから是は英吉利人の性來の性質とでも言ひませうか、運動が非常に好きです、男女の區別なく好きです。さうして如何なる場合でも仕事をした時を見

計らつて、女でも男でも皆運動をします。オクスホルドなどと云ふ大學へ行つて見ると、大學などでは一時頃からして三時頃までに、二時間か一時間半位の間運動時間がある。其の間に部屋へ入つたり新聞を讀んだり、手紙を書いたりすると、直ぐに禁足とか何とか云つて罰を言付かる。それてあるから其の間は何なりとも自分の好いた遊戲、テニスをしやうと、走りツこをしやうと、或は其の他の事をしやうと、それは隨意てありますが、其の間は必じ運動をしなければならぬと云ふやうになつて居ります。それが非常に規則正しく行はれて居ります。それから又さう云ふ事てなくとも、市中の普通の家の人ても夕御飯前ぐらゐになると、殆ど舉つて公園なり何處なりと行つて、一と運動してゝなければ夕御飯は食べないと云ふのてあります。

それから殊に婦人方は船に乘つて遊ぶことが非常に好きらしいのてす。船遊びが非常な流行て、少し金を持つた人てありますと、自分の遊び船を拵へて置いて、さうして其の船に自分や家族が乘つて近海をグル／＼乘り歩くとか、又は夏休みの間は朋友なり親戚なりを招待して、さうして船へ乘せて方々歩いて見物をするとか云ふやうな工合にして居ります。それてあるから從つて子供の中から船に乘ることは男女共に何とも思はないやうになつて仕舞つて、船に乘つて居るのは家の中に住んて居るのと同じやうな模樣てあります。それてありますから英國人が東洋なり、又は亞米利加なりへ皆出て行く。即ち商業上なり其の他種々の關係から出て行きますが、皆家内を伴れて行くてす。英吉利人が一人てもつてやつて行くと云ふことは餘程少ない。先づ殆ど無い、英吉利人てあつて家内を持つて居る者が、其の家内を家へ置いて、自分一人て稼ぎに行くと云ふことは、絶無と云ふ所までは行きはしますまいが、餘程少ないのてす。必ず家族を連れて行く。それてありますから東洋てあらうと何處てあらうと、殖民地へ行つて成功して居るのは英吉利人が多い。それは家族を

伴れて行くからであります。佛蘭西人などは一人で行く方が多い。獨逸人は丁度英吉利人と佛蘭西人との間ぐらゐである。それであるから殖民地へ行つて事業を起して、其處で成功するのは英吉利人が一番多いと云ふことは、是は前から聞いて居りました。聞いて居りましたけれども、どう云ふ譯で多いのかと云ふ理由は分りませなんだが、今申したやうに家族を伴れ、或は夫婦づれで行くと云ふことが、成功する所の原因の重なるものではなからうかと、私は斯う判斷をして居ります。併しそればかりではなく他にも原因がありませうが、それが最も大なる所の原因だらうと私は思ひます。

それば運動を能くすることゝ、船に乗ると云ふこと其の爲に船に乗ることを少しも怖れない。船に乗つてから醉ふなどと云ふことはありませぬ。故に海外へ乗出すと云ふことは一向心配にならないのであります。所が我が日本の御婦人方は今日百人船に乗られると、九十人以上は皆醉つて仕舞ふ。婦人ばかりではない男子でも船に醉ふ人がなか〳〵多い、私などは船には大變弱い。男子でも百人の中五十人以上は醉ひませう。所が英吉利の人は男女共にさう云ふやうな工合に子供の中から船で遊んで居りますから慣れて仕舞つて居る。それ故少しも何ともない、是が殖民地を成功させる所の最も必要なる點であらうと思ひます。

それで英吉利に僅か居りまして、今度は獨逸へ行きました。私が前年獨逸に居りましたのは丁度今から十八年ほど前であります。其の時分は佛蘭西の下女などの着て居る平日の仕事着物と云ふのが、丁度獨逸の上流社會の奥さんの平日の衣類よりは良いだらうと思つて居つたのです。實際さうであつたのです所が今日に至りますと獨逸はなか〳〵華美になつて居りまして、さうして佛蘭西へ行き墺地利へ行き、さうして獨逸へ歸つて來ても、餘り著しく目先が變りませぬ。以前は佛蘭西へ行つて獨逸へ歸つて來ると、何だかどうも非常に汚ないやうに見えた。丁度

東京あたりに居つて、それから飛彈の山の奥へでも入つたと云ふやうな感じを起したので、比較にならぬ位に差がありましたが、今日では獨逸の中でも都鄙おしなべて殆ど歐羅巴の中で他の華美なる國と比較して遜りが無いやうに見受けられる。それで其の時分は婦人の服裝がさうでありましたからして、從つて男子の服裝も矢張り其の通りでありました。所が今日は男子の服裝も婦人の服裝と同じことに、餘程華美になつて居ります。それで以前私等が留學して居りました時分には、シルクハットと云ふ高い帽子を被つて居るのは、在伯林の日本の留學生の中では、七八十人も居た中で二人か三人位しか持つて居りませぬ。其のやうな高帽子を被つて居る人は、餘程ハイカラじみてやつて居つたのだが、今日行つて見ると留學生は百人位も居りませうが、其の中で高帽子を持つて居らぬ人が二三人あるか無いか、マルで反對になつて仕舞つて居る。それでなければ平日の交際が出來なくなつて仕舞つた。それだけ男子の方でも進んで居る。それで婦人の服裝が華美になれば、それに伴れて男子も矢張り同じやうに華美になつて來る。男子が華美になつて婦人の方が綺麗にすると云ふやうなことは、どうも無いやうに思ひますけれども固有の獨逸の性質たる所の儉約即ちシマッと云ふことは、是は世界に無比と云ふても宜い位であります。それで今日の獨逸でありましると、工業上でも學問上でも、又は農業上でも、歐羅巴中一番隆盛に赴いて居る所でありまして、獨逸は何れの國へ參りましても皆活氣を帶びて居つて公私共に家を新築して立派に構えて居るやうであります。他の國へ行くと皆下り阪のやうであつて、以前よりは、即ち私が前に參つた時よりは、皆多少衰微したやうに思はれます。所が獨逸は何れへ行つても非常に盛んにやつて居る。それで輸出入の表を見ましても、獨逸が歐羅巴の中でも一番輸出入が盛んになつて居てる。さう云ふ有樣であつて今は餘程金が出來て、伯林あたりの銀行などでは金の使ひ途が無いと云つて

困つて居る。さう云ふやうな事で、私共は少しも經濟上の事に關係の無い者でありますけれども、それでも銀行社會の人に會ふと、其の人たちが、日本は何故獨逸へ公債を募りに來ない。獨逸へ來れば幾らでも安く貸すのに、何故借りに來ないのか、以前の通り貧乏に思つて居るかと、いやみを言ふて居りましたが、併し私の歸る少し前に獨逸で公債を募るやうになつて、大變に好結果でありましたが、さう云ふやうな工合に資金の卸し所が無くて困ると云ふやうなことであるにも拘らず、人民の經濟の方のシャッと云ふ側に於ては、以前と餘り變らぬ。旅行をしましても朝はコーヒーとパンを三ッ位付けます。私等は一つか或は一つ半位しか食べられない。けれ共獨逸人は二つ位食べます。さうするとパンが一つ殘る、或は一つ半食べれば一つ半殘る。所で私共は一つ半殘つたら其の儘て置くと、ボーイが下げて仕舞ふですが、それが獨逸人だとさうでなく、一つ半のパンが殘つたならば、それを切つてバタを塗付けて新聞紙へ包んで鞄へ入れて仕舞ふ。さうして晝飯の時に用ゐる。男子婦人おしなべて皆さうです。それでありますから芝居などを見に行きましても、芝居の幕間になるとビールも飲みに行く。日本ならば氷水とかお茶を飲むと云ふやうな工合にビールを飲む其の時には一遍に二百人も三百人も來るから、一々ビールを注いで居ては間に合にない。それでビールを二百なり三百なり注いで列べて置く。さうして一ぱい幾らと云つて渡して飲む。所が泡が立つて居るのは一ぱいになつて居るが、泡が消えると八分目位になる。我々は其のビールを取つて飲みますが、獨逸人は決してさうでない。八分目内のものを取つてそれに一ぱい注ぎ足させて飲みます。それが書生だとか何とか云ふものでない。巨萬の財產を有つた人がさうなのです。總てがさう云ふ工合でありますから、例へば夕方になつて瓦斯に火を付ける、其のマッチのからを其邊へ棄てゝ置くと下女は叱られる。皆それを拾つてストーブの中へ入れる。何も薪の足

にはなりはしませぬが、其の中へ入れる。さういふやうに細かい所にまで目を着けてやる。それで日曜日には矢張り皆家族を伴れて郊外へ散歩します。是は各國とも皆さうですが、併し佛蘭西だとか英吉利だとか伊太利とか云ふ所でありますと、多く馬車に乘つて行きますが、獨逸は馬車は比較的少ない、シマツな國でありますから汽車に乘つて行く、さうしてあとは歩くのです。それから料理屋へ行つてお茶を飲む。さうすると決して其處でパンを取つたり菓子を取つたりしませぬ。皆行きがけに菓子屋なりパン屋などで袋に一ぱい買つて、風呂敷へ包んで持つて行つて、先方へ行つてコーヒーを五人前呉れとか何人前呉れとか云つて誂へる。それもお茶椀に一ぱいづゝ五人だけ持つて來ると云ふことはなく、壺へ入れて取寄せる。さうすると大變安い。さうして人數だけ茶椀を取つて、行つただけの者が皆一緒に其處へ集つて、買ふて來たパンを出して茶を飲むと云ふやうな工合にしますから、費用が安くしてさうして一日面白く愉快をして來る。さう云ふやうな工合に身體の保養を爲し、又運動を爲し、樂みをすると云ふことに何處までも力める。併しそれが爲に金を餘計に使ふといふやうなことは成たけせぬやうにして居る。併しながらいつもさうかと云ふと、それはしなければならぬと云ふ時には、なか〳〵我々が目を廻すやうな驚いたことも致します。けれども平日の有樣はさういふやうな工合に暮して居る。

これて各々其の國々には種々の特長はありますが、先づ大きな國で著しく見えて居るのは、獨逸、英吉利、亞米利加、佛蘭西と云ふやうな所であります。それから何處の國にも無い一種特別なる所の美風とでも言ひませうか、非常に結構な性質を見たのは西班牙であります。此の西班牙は國は殆ど亡國で、半分つぶれ掛けて居るのと同じことで、人間は恐ろしい懶け者で、さうして學校へ行つても何處へ行つても掃除と云ふやうなことは何年しないかと云ふやうな工合に汚ない。白いものを着て行かうものなら直

ぐに黑くなつて仕舞ふ。病院であらうとも何であらうとも非常に汚ない。併し夫婦の親密のこと、親子の情愛とに於ては、どうも歐羅巴、亞米利加あたりで見受けない美風があります。これは日傭取人足のやうなものでも、又は車夫、土方のやうな者でも、毎日チャンと極つた所へ仕事に出て行く。さうすると家內のある者は妻君が料理を拵へて、笊みたやうなものゝ中へ入れて、さうして其の家族は亭主の働いて居る所へこれを持つて行つて、十二時になると往來の端であらうと、普請場であらうと、其處へ持つて行つて廣げて、さうして家族は皆な、子供も妻も亭主も一緒に御飯を食べる。それはどんな貧しい暮しをして居る者でも皆さう云ふ事をする。それでありますから西班牙の都マドリットなどにて十二時から十二時半頃までに散歩すると、往來は皆宴會であります。車夫でも土方でも何でも殘らず其處へ家族が集つて御飯を食べて居る。おいしさうに食べて居ります。是は私大變どうも羨ましい風習であると思つた。どう云ふ御馳走を食べて居るかと思つて見た所がなか〳〵可なりの御馳走を食べて居ります。斯ういふ風は最も良い事であらうと思ひます。他の國ではさう云ふ風はありませぬ。他の國では晝間働きに行つて居る者は、大抵パンにバタを付けてこれを食べ、ビールを一ぱい飮んで居る位のものが普通でありますが、西班牙は晝飯の時になると、其の主人が出稼ぎに行つて居る場所へわざ〳〵行つて、家族が其處へ集つて食べる。

それからモウ一つ著しく目に着いたのは和蘭であります。和蘭の婦人は西班牙と正反對で、非常な奇麗好きであつて、家の掃除から何から餘程注意をして居ります。朝九時頃に細い町を通りますと、なかなか往來が出來ませぬ。何故往來が出來ぬかと云ふと家の床に敷いてある絨氈、あれを妻君やら娘さんやら下女やらが寄つて、ピシャ〳〵叩いて居る。其の彼方からも此方からも來て通れない。大きな道路は宜いが、小さな町はなか〳〵通れませぬ。さういふ

やうな工合に總て奇麗にして居る。絨氈の如きものまで叩く位位てありますから他の所の拭き掃除は無論のこと奇麗にして居ります。斯ういふ狀態でありますに付て、今日此處で御話をして、それから希望と云ふものは、斯ういふ工合に皆西洋のものを持つて來て、さうして其の儘日本に移して其の通りにして下さいと云ふのではない。唯だ御參考に御話を致すのでありますが、私が其の總體を見まして判斷を下しました所は、どうしても婦人が先に立つてしなければ男子が働かない。又男子が懶け者であつても婦人が先に立つてやると、自然とこれに近寄つて働くであらう。所で一番日本の方に願ひたいのは此の運動と云ふこと、それから同じ運動でも、船に乘つて遊ぶことを、一時には行きますまいけれども、どうか力めてやつて戴きたい。海は危險だから溫泉へ行かうと云ふよりは、浪の靜かな時に內海でも航海するとか云ふことに、是から先き力めてして戴きたいと思ふ。さう云ふ工合に段々ならないと、日本の國は今日面積の極つて居る所であつて、人口の繁殖することは非常に多いのです。五十年の間には殆ど倍になるのですから、さうすると人口の多く繁殖する所であつて、さうして面積の極つて居る所であれば、終には暮すことが出來なくなつて仕舞ふ、さうすればどうしたツて外へ踏出して貰はなければならぬ。外へ踏出すに付ては今のやうに船が怖い、出ることがいやだと云ふやうなことでは到底出來ないのであります。今日冒險事業をしやうとする人があつて、是から臺灣へ行つて一つ稼いで來て見やうか、滿洲へ行かうかと云ふて御覽なさい。其の人に奧さんがあれば、十の中九分までは奧さんが、そんな遠方へ行つて危險なことをするよりは、內地に居つてシマツをするから、こちらに居つて下さいと云ふな事を仰しやる。是は私保證いたします十人が十人まではありますまいが、大抵はさうであります。併ながらさう云ふやうな有樣で是から人口の繁殖する國民が、斯う云ふ小さな島國

に居つた日には、共倒れて御互ひに倒れて仕舞はなければならぬ。それでありますから今日からは出來べきだけ皆さんが船遊びをして戴きたい。船遊びは健康上に於きましては非常に良い。大抵の病氣は船に乘りますと治る。治ると云ふのは海の空氣を吸ひますと大變に健康上に宜い。又船に乘りますと非常に食物が進む。私などは船が非常に弱い。前年歐羅巴へ參りました時分にも、歸りには船がいやで仕樣がない。家には家族もありますから、どうしても歸らなければならぬが、船がいやで堪らない。けれども事實に於てさう云ふ譯にいかぬから歸つて來ましたが、歸りにはそれ程でもなかつた。それで今度も行つて來いと云ふことでありましたです。それで行かなければ死刑にすると云ふのでもないし、行かなければ行かないだけの事であるから、御免を蒙つて止さうか知らんと考へて見たり、いろ／＼したですが、併し折角のとこであるし、前に行つた時から

二十年振だからどの位變つて居るかと思ふと、行つても見たしと思つて、思ひきつて出て行きました。所が今度は存外强かつた。さうして横濱を出ました時には非常な暴風雨でありまして、それば三日ばかり續いて居つた。それで百五十人ばかりの乘客が大抵五十人位しか食堂へ入りませぬ。所が私は一度も食堂を缺かしませぬ。前の事から思ふとマルで嘘のやうで、歸つて來て話をすると、それは感心だと云ふ人はない。それは嘘だらう、誰も居なかつたからそんな事を言ふのだらうと言はれたが、實際證人があるので、私一人ではない。同行者が十六人居つてそれが皆知つて居りますから確かで、事實に於て少しも弱らない。それはどう云ふ譯かと言へば三箇月ほど前からして養生をしたのです。船に乘れば弱いと云ふことを自分で知つて居りますから、それには身體が壯健で胃が健全で、身體に缺點が無いやうにして居れば、さう船に醉ふものではないと斯う思つて、三箇月ほど前から養生をしました。所が其の結

果グルリと一週して來る間一度でも航海中の食堂に缺席したことはなし、唯だ此の前の時は書生であつたのですから、どんな風をして行つても宜いのですが、今度はさう云ふ譯にはいきませぬ。食堂へ行く時は衣服を着換へて、髮の一つも撫付けて行かなければならぬのです。さう云ふ事もやつて食堂へ入られました。それから考へますと身體を壯健にして、胃を健全にさへして居れば、さう船に醉ふものではないと私は信じました。それであるから胃を壯健にして夏休みなどには成るべく皆さんに船遊びなどをして戴いて、さうして十分に船は面白い、樂みだと云ふ氣風を養つて戴きたいと思ひます。さうすると健康上に於ても非常に宜いし、又日本の發達上に於ても非常に必要であります。日本の如き周圍皆海である國に生れて、船に乘ることが嫌ひでは何をすることも出來ませぬ。

それに付いては食物が大變に必要であります。それで今度ズッと各國を廻つて參りましたが、日本ほど食物の惡い所は何處にもありませぬ。是は上流の人或は中流の人の食物を指して言ふのではない。殊に下級の人の食物を言ふのであります。下級の人が壯健にして働いて呉れなければ、國は決して富むものではありませぬ。其の國の富を增す原動力となる者が粗食をして居つては迚もいけませぬ。それは何處の國の食物を見ましても皆非常に良い。併し日本の食物も良くすれば出來るが、他の國の食物のやうにすれば非常に費用が高くなる。良いことは知れて居るけれども、費用の點から實行が出來ぬと云ふ考がありませうが、私はどうもさうではないと思ひます支那あたりの食物を見ますと、支那の上流の食物は歐羅巴の食物よりは良い。又支那の下流の食物は、是も歐羅巴の下流のものよりは遙に良い。さうして費用はどうかと云ふと、費用はズッと少ない。それは內地へ入つて見ませぬから、能く支那一般の事を申すことは出來ませぬが、東洋の港々の支那の町に入つて、其の近傍を歩いて見ますと、皆非常に良い

食物を食べて、さうして比較的に費用は安い。どうしてさう云ふ事をして居るかと云ふと、肉類の如きものでも何一つ棄てると云ふことはない。魚一尾でも頭は頭、腸は腸、肉は肉、骨は骨で殘らず食ひ盡すやうになつて居る。それで唯だ食べられないやうな頭の如きものは、一つの大きな鍋へ入れる。即ち魚の頭とか牛の胴骨とか豚の骨とか云ふものを入れて、それをゴト〱煮て居る。さうして其の煮出した汁の中へ大根や芋やいろ〱なものを切つて入れて煮る、さうするとそれ皆勞働者が買ひに行くさうして鉢に一ぱい幾らと云ふ價で買つて、それを食して居る。それから他の國ではないですが、支那では湯を販賣して居る。風呂を立てたいと思へば其の湯を買ふ。何でも上海あたりで湯の價が一荷一錢五厘とか言ひました。さうすると熱い湯を一錢五厘づゝで二荷買つて、それに水を入れると五衛門風呂が立派に出來る。毎朝顏を洗ふのでも何でも皆買ふ支那人の家には風呂などは餘りありませぬから、湯でもつて身體を拭くと云ふやうな工合であります。それでありますから自然と衞生法が行はれて行くやうな次第であります。それで日本に於ても魚河岸とか或は蒲鉾屋の前を通ると、肥料にする爲に魚の頭でも尾でも勿體ないと思ふやうなものを四斗樽の中へ入れてある。あゝ云ふものを集めて來て支那人のやうにしてやつたならば、大變に旨くもあり、又非常に安く出來るだらうと思ひます。併ながら日本のやうに各々一軒毎に鍋釜を以て飯を炊いて居ると云ふことでは迚もいけませぬから、それで今急にどうするといふ譯には參りませぬが、始終勞働をする人は、家で飯を炊いたり何かしないで、外で旨いものを安く食べるやうな方法を組立てゝ、さうして其處から買寄せれば、錢が安くて旨いものが食へる。大變經濟になる。一軒の家で各々飯を炊いたりする時間はなか〱大したもので、それだけ止せば内職をする時間なり何なりがどれだけ増すか知れない。それ故どうかさう云ふやうな工合にしたいと思ふ。是

は私の理想的の望みなのであります。

それからもう一つは勞働者の爲には保險といふ事が非常に必要でありませう。獨逸にも其の他の國にもありますが、一番貧乏な國で殆どつぶれ掛けて居るやうな西班牙の如き所でも、保險事業が發達して居る爲に勞働者は比較的に安心して働くことが出來るそれは一家族五人くらいで暮して居る者が、若しも病氣になつたなれば、療治をして貰ふのと、それから死んだ時にはスッカリ棺桶から葬式を出す費用、坊さんを頼む費用、さう云ふやうなものを總て殘らず引受けて呉れる。それには一家族が年二十五ペセタ拂つて行く。一ペセタは日本の三十錢少し餘で、先づ三十五錢と見て、二十五ペセタと云ふと八圓五十錢位に付く。一年に八圓五十錢拂ふと五人位の家族がどんな病氣になつても、病院へ入れて呉れて、万一病氣で死ぬか、或は病氣でなく死ぬか、それに拘らず、死んだならば少しも心配なく葬式を出して呉れる。さう云ふ會社が出來て居りますから、年に二十五ペセタと云ふと勞働者としては隨分纒つた金になりますが、月々に割つて掛けて行く。月に七十錢位。一日に割りますと二錢餘掛ければ宜い。さうすると一人ではない、一家族五人居つても六人居つても構はない。一家族の總ての者を引受けて呉れると云ふことであります、さう云ふ事が出來ると勞働者が非常に安心して仕事をすることが出來ますから斯う云ふものが追々と出來て、さうして食物の如きものも前にお話した通り例へば一軒毎に五合づゝ御飯を十軒で十度に炊くのを、五升の米を一度に炊くのとは非常に費用と時間が違ひます。さうしてさう云ふやうに少しづゝ炊くのは旨くありませぬ。餘計炊けば旨い。それでそう云ふやうに一度に安く炊いて與へるやうな仕組を拵へて、さうして時間を節約してそれを働く方に使ひ、又さう云ふやうな必要の無い人でも、世の比喩にも言ふ通り牝雞すゝめて牡雞時をつくると云ふやうなことゝて、婦人が働いて見せると、男子は幾ら懶け者でも働くやうになります

から、私が男子てそんな事を言ひますと何だか自分がずるいやうでありますが、私は大變能く働きます。

それで總てさう云ふやうな工合に働いて戴いて、さうして國民總體でやらないと、今後の日本を獨逸だとか或は英吉利だとか云ふやうにするにはなか〳〵容易な事では出來ませぬ。けれども唯今申したやうな工合に皆さんが一致して其の方針でやつて下さりさへすれば、是は決して難い事ではない。獨逸なども十年か二十年ほど前には、斯う云ふ工合で行けば今に世界中で一番金持の國になる。且つ勢力の強い國になると云ふことは、私もさう思つて居つた。私ばかりではない子供までさう言つて居つた。所が今日は其の通りである。それであるから國を富まし國を強くしやうと云ふのは決してむづかしい事ではない。新規の事を發明して人の出來難い事をするのではない。誰も彼も知つて居ることとて、それを一致してやれば出來ることとてあります。それを根氣能くやるかやらぬか、一致してやるかやらぬかと云ふ事に在りますから、それをやるには身體が壯健であつて病氣に罹らないやうにしなくてはならぬ。それには運動が一番大切でありますから、運動をすることゝそれから食物を成るたけ注意すること、それから夏休みなどに避暑をなさるのでも、成るべく海上に避暑をして、海に行くことに慣れて、怖れないやうにする。さう云ふ事を皆さんからどうか御奬勵を願ひたいと存じまして、今日下らぬ事を御話し致しました。是て御免を蒙ります。

（完）

茨城支會講話

大日本婦人衞生會茨城支會ニ於テ

婦人科　秋元洸二君述

催眠術に就て

抑も催眠術は古來神經不可思議なる魔術なりと目さ

れて居りましたが、近來段々科學上の進歩に伴ない全く心理學と生理學とを以て說明し得らるゝ最も有益なる學術であると云ふ事が明らかになり、隨つて我醫道は申すに及ばず、宗敎上、敎育上其他諸般の方面にも應用せらるゝ樣になりました。則ち我東京大學にては大澤、三浦、吳の三醫學博士、岡田、志田の二法學博士、福來、花澤等の文學士、山口哲學博士、其他朝野知名の學者が大いに研究せられつゝありまして……私も亦一昨年來聊か其お仲間入を致して居ります。

（二）歷　史

催眠術の現象は太古よりあつた樣で、彼の埃及、亞西利亞、馬比倫、希臘、羅馬等の古國の歷史を閲して見ると、或は預言者、或は神巫等が神託と稱して種々奇異なる言を吐き世人を惑はして居りましたそうですが、是等は皆催眠術を應用したのであろうと思ひます。降つて一千七百三十七年の頃、中部歐羅巴の「コンスタンス」湖畔に生れた、夫の有名なるメスメルと云ふ醫者が宇宙間には一種靈妙なる流動體があつて、其れが天體及地球から吾人々體に媒介して所謂動物電氣を起すものであると云ふ說を唱へ出して近世までは專ら此說を信じて居りましたが、其後ブレート、ベルンハイム、リエボー等の學者が輩出して、決して動物電氣と云ふものは無い、全く心理的作用であると云ふ事を唱へまして、舊說の全く非なる事が明らかになりました。

（三）睡眠の理

催眠術を研究せんとするには、どうしても睡眠と云ふ事を持出さなければお話しが出來ませぬから一寸其原理の概要を述べて置きましょうが、是れには五ツの說があります。

第一　精神說で、則ち人が自ら睡らうと思ふ觀念を起して自然精神の活動力を失ない、爲めに睡眠を催すものであると云ふのです。

第二　化學說で、吾人は日常腦髓を勞して居るが爲め腦の組織を酸化して一種の老廢物所謂疲勞物質

を產生し、其刺戟を腦皮質に傳へて睡眠せしむるものであるとの說でプテイユル氏は此物質は乳酸であると云つて居る。

●第三　生理說で、一體睡眠を爲すの要訣として、腦髓血管の縮小　即ち腦貧血を起すべきものであるとのことはモッソ氏が確證して居りますが、是れは御同然の實驗上にも最も悟り易い說であると思います、即ち吾々が火燵に當り、又は溫湯に這入りますと直ぐ眠くなりますが、是れ蓋し其溫熱の爲め下半身の血管が膨脹して血液を導き來たり爲めに腦部に貧血を起すからであります、又能く食後に睡氣が催しますのも、必竟胃部に消化作用を與さんが爲め多量の血液を其部に導びき自然腦貧血を起すからであります。

●第四　組織說で　元來腦髓を構成して居るものは主に神經細胞であるが、是には數多の突起があつて、平素互ひに連絡して居るが睡眠の場合には其突起が短縮し又は位置を變じて交互相觸接せない樣になるのであると云へます。

●第五　複合說で、是れは以上の說を適宜調合したものであります。

（三）　催眠の方法

抑も催眠術に於ける方式は彼の所謂動物電氣時代にありましては甚だ重要視せられたもので、即ち彼のメスメル氏の如きは室內に大きな鏡を据へ付け或は目を眩ます許りな種々の裝飾を爲し、或は樹木に電氣を傳へて異樣な感動を起さしむる抔して行つたものであるが、今では決してそんな面倒の事を當るものは無い、只施術者が被術者と相對して座り、其額部から顏面、胸部、腹部と順次に上から下へと撫で下ろすのもあり、或は施術者が被術者の前に座りて其兩手の拇指を握り、而て己れの顏面殊に眉間の部を凝視せしむる抔して被術者の注意力を集め或は指環又は鉛筆の如き極少さな物體を眼の上前方約八寸許りの所に持ちて凝視せしむる抔して生理的の刺戟を與へ、而て言語を以て眠りを催すべき事即ち暗示

を爲して催眠せしむるのが普通の法です、それゆへ此術を施すには

一外部生理的刺戟と

二内部精神的刺戟と

が相俟つて其功を奏するものであります、然し被術者の性質如何に由て多少異なるべきもので、例令ば生理的刺戟を重んずるものもあり、又は精神的刺戟を主とするものもあり、或は全く精神的刺戟即ち暗示斗りて催眠狀態になるものもあります。

而して生理的刺戟とは如何なる事を云ふかといふに即ち吾人々體の表面にある感覺器官即ち五官器を刺戟するのでありまして今一々之を申述べましよう。

(一)視覺　即ち目を刺戟する方法で、是には强き刺戟を急劇に與へる方と、弱き刺戟を徐ろに與へる方との區別があります。

(甲)はシャコー氏等が主もに用ゐた方法で即ち被術者を暗き室に入れ置き、急に電燈を點すか或は「マグネシュム」を燃すか或は今迄燦然として明光を放ちし電燈を卒かに消すが如く、視覺に急激なる刺戟を與ふるのであつて、此は主もに「ヒステリ」患者に用ゆる法であります。

(乙)はブレード氏等の慣用する方法で、即ち前項にも申した通り、小さな物體を眼前に持ち來り上目で注目させるのであります。

斯くする事數分時立ちますと、感受者の眼は濕ふて來て涙ぐみ、視軸は停止して活動しなくなり、眼睛は次第に膨脹する樣に爲つて來る、此時は早既に多少催眠の狀態に爲つて居るのでありますが、尙ほ是れを其儘に持續して居りますと、感受者は少し呻吟して後ろ樣に卒倒し、口から泡を吹き出して所謂昏睡狀態になるのであります。

此れと同じ道理で(い)吾々が極細かい文字例令ば横文字の本抔を長く見詰めて勉强して居ると眠氣を催し(ろ)婦人方が針仕事に熱注して居られると「ポンヤリ」として來て時には其儘卒倒する事があり(は)芝居見物に行きても同じ樣な面白くない藝を續いて

漸つて居るのを見詰て居ると睡くなり（に）又鏡に向つて長く自己の姿を詠めて居ると眩暈する事がある抔は皆此道理であります、又能く吾々にはある事でありますが、夜中なんとしても眠られない時に何か六か敷本を取り出して來て讀ますと致しますと直ぐ眠氣がさして參ります、夫れ故夜中若し眠られない時には右の如く何か面白くない本を讀み初めるか或は何か邊りにある少さな物體、例之ば襖の引手とか或は簞笥の環の樣なものを凝視て居ると屹度睡くなります。

（二）聽覺　則ち耳を刺戟して催眠せしむるので、是には強く遣るのと弱く遣るのとの二種があります、例へば（甲）は大太鼓を打ち、鐘を鳴らし、大砲を放ち若くは大聲を發するが如く何んでも不意に耳を驚かすのであります、（乙）は此反對で可成低き音響を徐かに聞かせるのであつて、是に一番適當なるは時計の音であります、吾々が枕時計を寢所に置いて寢ますと、睡り善いのは此理に外ならぬてあります、其他傳り歌を歌ふと小兒が睡り、蟲の聲、犬の嘘吠へ、麥藷溫飩の賣り聲、按摩の笛の音又は幽微なる音樂抔を聞きますと、兎角睡氣を催し易いものでありますが、是亦同一理であります。

（三）觸覺　則ち皮膚を刺戟するので、是には種々の遣り方がありますが、先づ主もに行ふ法は手の指又は羽毛の如き軟らかき物で前額から顔面、手足抔を摩擦するのであります、ビーターと云ふ人は人間の皮膚には催眠帶なるものがあつて、此部を摩擦すると必ず睡るものであると云ひました、而して其催眠帶とは人々に由つて多少の差はありますが、先づ前額、拇指、膝抔は其主なる所であると申して居ります、成る程吾々の睡り難い病人又は泣き叫んでなんとしても睡らない小兒等に出逢つた時に其額に手を中てゝ擦つて居りますと大抵睡つて仕舞いますが此理に外ならぬのであります、又弱い按摩に揉ませた時、耳搔き又は紙捻の樣なもので耳の中を長くいぢつて居りますと睡くなりますのも是亦同一の道理で

あります。

(四)嗅覺　鼻の機關を刺戟して催眠せしむるのでありますが、此は餘り實行の場合がござりませぬ、然し薫郁たる梅花の芳りや麝香の香抔を長く嗅いで居りますと睡くなる事は随分ある事で御座います。

(五)味覺　口舌の機關に據るのですが、此は餘り必要が無い樣です。

(四)　催眠の理

此理を論ずるには迚も一朝一夕に申し盡せるものではありませぬが、兎も角右の如くに種々な生理的刺戟を與へて感受者の注意力を一方に惹き、則ち無念無想の狀態にして置いた場合に暗示則ち種々な言語を云ひ聞かせると、彼は一も二も無く之を信じて其言ふ通りになり從つて肉體にも此作用を及ぼす樣になる、例令ば『貴下の手はモー動かぬ』と云へば必ず動かぬものと信ずるからなんとしても動かなくなる又『貴下の身體は痲痺て仕舞つた』と云へば其氣になるから切つても突いても少しも痛まなくなるのです

而して此理論を説くには種々な説もありますが、近頃有力な學説としては、由來人間には第一人格と第二人格即ち現在性の精神と潜在性の精神とがある(或は主意と補意識と説くもあり)而して吾人の平常の場合は現在性精神の主宰する所で、催眠術に罹つた時の如き場合は潜在性精神が働いて來るのであると、但し潜在性精神は正淨潔白な靈魂で基督教の所謂聖靈に近いものであると申してあります。

(五)　暗　示

暗示は原語「ズッゲスチヲン」と申しまして、之を意譯すれば跡伏する、告げ知らす、或は教唆とでも言ふて善いのです、而して其定義は『人の精神中に或る觀念を起さしめ遂に是も非も無く之を信ぜしむるのであります』、其れ故暗示なるものは本術に就ての骨子で、苟くも暗示が無かつたならば決して施術する事は出來ませぬ。

今此暗示を原因に由て區別しますと次の三つに成ります。

(一)他人より與へられたるもの即他働的暗示で、是は通常催眠術を施すに當つて、施術者が被術者に向つて示す所のものであります。

(二)自分の觀念より生ずるもので即ち自働的暗示であります。

(三)外界の事物より暗示せられたる者です、又暗示を時間の關係に由て分けると次の三つになります。

(甲)催眠術中にのみ行はれる暗示、

(乙)醒覺した後までも繼行せらるゝ暗示、

(丙)通常の狀態に於て行はるゝ暗示、

又此意義を解釋の範圍に由て別けると

(天)廣義的暗示　是は吾人日常の生活現象に於て盛んに行はれて居りますもの。

(地)狹義的暗示　催眠術に於て行ひますが如く個人的に關するもの。

以上は暗示の分類を申し上げたのですが尚ほ暗示を人に施しますと其結果として必ず幻想と云ふものが起ります、而して其幻想にも次の區別があります。

(一)幻覺でありまして則外界に何等の事物も無いのに有る樣に感ずるので例へば幽靈の如きでありますと又現在其處に有るものを無い樣に感ずるので例へば隱身術で身體を見へなくするが如きであります、故に甲者を名けて積極的幻覺と云ひ乙者を呼んで消極的幻覺と申します。

(二)幻影は外界の事物に對して正當な觀念を起さず何か之を錯誤して感ずるので例之ば臆病な人が暗夜木の古株を見認めて化ケ物と誤るが如き類であります。

而して此幻覺と幻影とは吾人の五官器即視聽嗅味觸の諸感覺に現はるゝもので、實に神變不可思議の現象を呈する事があります今此道理を一層お解の良い爲めに種々な事例を舉げてお話致しましよう。

則ち

(三)臆病な人が夜中淋しい所を歩行き居りまして草木が風の爲めに動搖くのを認て幽靈が出たと思ふ事のあるのは是れ他物的暗示に因る視覺の幻影であり

ます。

(四)嘗て人殺しを仕た人が夜中人靜まると兎角其被害人の顏が見へたり、聲が聞へたりする事のあるのは是即ち自動的暗示に因る視覺及聽覺の幻覺であります。

(五)アンモニアを持つて來て『是れは善い香である』唐辛を以て『是は甘味である』、冷水を與へて『此は暑い湯である』と暗示をすると其人は皆ソー思つて仕舞ふのは 即 嗅覺、味覺、觸覺に於ける幻覺であります。

(六)名刺又は端書を以て是れは一圓札である、十圓札であると云ふ暗示を為ると其人はホントに一圓や十圓の紙幣だと思ふ事のあるのは是視覺を害用した錯覺であります。

(一)健康な人に催眠術を施して貴下の手掌が大層腫れましたと暗示を致しますと其人は直ちに其部に痛覺を感じますが、是れ 即 他働的暗示に因る觸覺の積極的幻覺であります。

(二)外傷を受けた人に『貴下の傷は少しも痛く無い』と云へば其人は毫も痛みを感じませぬが、是 即 他働的暗示に因る觸覺の消極的幻覺であります。

以上申し上げたのは所謂狹義的の暗示で御座りますが、尚ほ廣義的の暗示についてお話し申さうなら、實に其範圍が廣汎なるもので、則 社會 百般の事物が皆此の暗示の現象であると申しても良い位のものであります、乞ふ次に之を詳述致しましよう。

(い)政治 今時でも天保時代に生れた人は兎角封建制度の夢が醒めないで、時には未だ尚ほ之を謳歌して居るものがあるのは則ち當時の暗示が未だに消へないからであります、又卑近な例を以て申上げますれば茲に水論が何かで百姓一揆があつたと假定致しませふに、其時村長や駐在巡査抔が百方説諭して、口が酸くなる程言ふて聞かしても、仲々鎮撫に至らなかつたものが、一朝知事様か郡長さんかゞ特に出張して來て説諭なせらるゝと只た一二言で忽ち鎮靜つて仕舞ふ、而かも其説諭の旨意が違がつて居るとい

ふ譯ても無く、亦其饒舌方が前者よりも後者が甘つたといふ譯ても無いのに斯く其功能が違ふと云ふのは蓋し彼れ百姓等は知事様や、郡長様の言はれる事なら、恰度善い事に違ひ無いと是も非も無く忽ち心服して仕舞ふ譯て取りも直さず、暗示の作用であります、又彼の津田三藏や伊庭想太郎の如きもので例しましようなら、彼等何れも君を思い國を愛へた熱情より出でた譯には相違御座りませぬが、然し何も人を狙ひ、人を殺さずとも外に道の無い譯でもござりませぬ然るに事茲に出でずしてあんな狂態を演じましたのは是れ蓋し世論の刺戟が彼等の腦髓に變調を來し換言すれば常識を逸したる一異の觀念即ちドーシテモ殺すより外は無いと云ふ心になつたのでありましようが、是即ち社會的暗示の作用に外ならぬのであります。

(ろ)風俗　或社會學者が『社會的の現象は凡て模倣の結果である』と申しましたが實に金言であります何となれば凡べて社會の進歩とか、發展とか申しますことは、固より新知識の發達に基くのには相違御座いませんが、飜つて其半面を見ますれば殆んど皆模倣の結果であります、即ち今日海上には汽船あり、陸上には汽車電信あり、身體には洋服や靴や帽子を用ゐる樣になりましたのは、必竟歐米の風俗を模倣した譯で則ち其模倣が巧みであつた丈けそれだけ國運の發達が早かつた次第であります、而して斯樣な模倣は素より結構な事で所謂長を取つて短を補ふの趣旨にもありますが、然し又之に伴ふて隨分弊害と思ふべき模倣もあります。

例之ば夫のハイカラ社流の有樣を見ますると目も惡くないのに眼鏡を掛け、肢の丈夫なのに洋杖を携へ、廉價で買へる刻煙草を捨てゝ高價なる葉卷煙草を燻らし、加之イヤ自由結婚じやとかイヤ男女同權じやとか唱へて妄りに西洋の風俗に心醉し遂に我國風に悖り又我國粹を傷ける樣な行動を爲て、反つて得々として居るものもあるのは是則ち西洋的の觀念を吾腦裡に印象したので一個の暗示作用に外ならぬて

ございます、又事物の流行に於ても其通りで例令ば昨年の肩掛けは今年のショールに壓せられ、昨日の丸髷は今日の束髪に敗け、其他着物に、帶に、簪に、下駄に、傘に、昨是今非忽ち流行形が變つて來て、而かも其實用の利害得失抔は更に頓着なく、只流行としあれば何んでも彼でも善いものゝ樣に思はせるのは、則流行に後れまいと云ふ奇好心が、其人の觀念を占領したので是亦暗示の作用であります。

(は)宗敎は　其殆んど凡べてが暗示の作用であります、則ち佛敎と云はず、神敎と云はず、あらゆる宗敎の下に信徒となれるものゝ多き事は其數實に幾億万人なるやを知らない程でありますが其中眞正に敎義を理解し……神佛の存在を確認して居る、換言すれば己れの理性に基いて純粹の信仰心を持つて居るものは果して幾何かありましよう、必ずや其大多數のものは或は『叶わぬ時の神頼み』と云ふ樣な譯で、何か非運非境に沈淪した結果初めて信仰心を起したものとか或は始めは只戯れ半分に敎書の講義や、お說敎を聞いて居つたものが自然と感化せられて遂に其仲間入りを爲たものとか、或は何か不圖した感動から急に神佛が有難くなつて、無我夢中で信門に這入り込んだものとかいふ樣な類であります。而して此等の人は或は晃々たる神光が我面前に見へたとか或は神のお聲が聞えたとか、或は佛樣に出逢つたとか、甚しきはお稲荷樣が乘り移つたとか申す事がありますが、是れ必竟其人の精神が既に神　佛と云ふ觀念で以て充されて居るから、所謂自働的暗示の作用で斯樣に見へたり聞えたりするのでありまして取りも直さず、最前申し上げました暗示的の幻覺又は幻影なのであります。

又夫の寺院に行つてお說敎を聞いて御覧なさい、壇上の僧侶が聲を張り上げて何か法話をせられると、其下に居並んだる善男善女は何んだか其意味も解らぬうちから早や南無阿彌陀佛〳〵と唱へて、今にも極樂へ行く樣な氣に爲つて仕舞いますが、是れ亦た暗示…立派な暗示の作用であります。

又古昔から能く聞き及んで居ことてござりますが、夫の信濃の善光寺や、三條山参り抔て、同勢幾十人参詣に出掛けた中で、若し平素心掛けの善く無いものとか或は曾て非常な罪悪を犯したことのあるものは其儘姿が無くなつたり若くは氣違いに爲つて仕舞ふ樣な事があるのは、是れ蓋し其人自らが己れの良心に顧みて疚しいから、乾度大罪を受けるに違いないと云ふ觀念を起し則ち自働的暗示の作用に因りまして遂に發狂したり或は病らつたりするのでござりましよう、又病人が病氣の平癒を得んが爲めに神佛に祈願を込めて或は護摩を焚き或はお百度參り抔致しまするど、果して病勢が善くなる事もあるし、又御供水を呑み御神酒を戴くと多少病腦が樂になることもある、而かも其水や其酒は之を化學的に分析して見ると、單に普通の水、尋常の酒に過ぎないのである否な寧ろ其水は時として變敗に傾いて徼菌を含み、其酒は混濁して塵埃を交へて居ることがあつても、然かもこれが害毒にもならず反つて時には効驗を見る事がある所以のものは、則ち其水、其酒を呑んだから、必ず其利益を得るに違いない……御加護を受くるものであると深く自信して居るから、其心理作用によつて換言すれば自働的の暗示に由つて、病が平癒した幻覺を起すのに外ならぬのでござります。

又數多の邪教殊に夫の囘々教等に於きましては無暗に魔法をつかつて、愚夫愚婦を驚かし、或は色々な奇跡を行なつて人心を收攬して居ります樣ですが、是必竟一種の催眠術を害用したもので、詰り其多くの信者が甘く暗示に感應して居るのでござります、我邦でも數年前世に嘖々たりし夫のアウン〇〇〇や濱口〇〇と云ふ樣な怪僧が東京邊りを横行して或は大病人を癒したり、或は痛み無しに齒を拔いたりする樣な眞似を致しまして一時世人を誑惑化したことがございましたのは詰り此類と擇ばない道理でござります。

斯樣な事を申しますと、神や佛は丸で無能物の樣に

聞こへるかも知れませぬが、決してそう云ふ譯ではござりませぬ、即ち神や佛は素より尊とい、有難いものに相違ござりませぬが、只其信仰の方法が魔術的で有つたり．又信者の信仰力が迷信者であつたりして即ち主に暗示作用が行はれて居ると云ふの意でござります、ドーカ呉々も此點を御間違ひ無い樣に願います。

(に)戰爭　は言ふまでも無く、國家の干城たる軍人が、熱誠なる報國心を以て其事に當らるゝのでありますから、誰しも皆滿身の勇氣を以て征途に登り、果敢なる任務を盡さるゝのでありますが、然し又數多い中には隨分卑怯な人物が無いとも限りませぬ而も假令ひ其性が卑怯であろうと、憶病であろうともイザ出兵と極つた曉には度胸が定まるもので、則ち旗を飛がへしたる多勢の人から、勇ましく萬歲聲裡に其行を送られ、次いで戰場に立つて、君が代の軍歌と、勇壯なる軍樂に囃されたら、自然と勇氣が勃興して、進んで君國の爲めに犧牲と爲り度いと云ふ觀念になると同じでござります、是れ則ち其人が國家的暗示に感應した結果であります、之に因んだ一場の佳話がありますが、先頃旅順方面で不幸病沒せられた名譽ある大の松村中將が、未だ出征せられざる前、或時同藩人たる某軍人に對されて曰く『貴樣は今年五十二歲ではないか今度の戰爭には是非死ね〳〵』と訓諭せられた事があつたが、間も無く某氏は旅順の戰場に立たれた時、始終背後から中將の聲で死ね〳〵と勵まさるゝ樣な心持がして、不知不識決死の奮戰を爲し、終に拔群なる偉勳を奏せられたと云ふ事でありますが、是れ前さに中將の訓諭せられた言が深く某の觀念に印せられたので取りも直さず殘續暗示に感應せられた譯であります。

(ほ)教育　上にも暗示が行はれて居ります則ち凡べての學生殊に兒童の精神は概ね無邪氣なもので、先生の云はれることは何んでも彼でも善い事である守るべき事であると云ふ觀念を持つて居りますが、然し先生とも全智全能の人許りでもありませぬから

遇には間違つた事が無いとも限りませぬ、而かも生徒は唯一の模範者と信じて居るから、たとひとうあろうとも毫も疑ふ所なく、其敎示さるゝ所の事は是も非も無く皆己れの腦髓に印象せられて仕舞いますが、是即ち暗示作用に外ならぬのでござり升、其れに付て一寸實例を申し上げますが私の親戚になる某男兒が、曾て胃の過酸病を病んで居りましたが、或時其受持の敎師が「お前は胃病の加減なら能く運動を爲なければいけない」と奬勵せられましたが、其れからと云ふものは朝となく、夕となく非常に運動を勸めます、所が其病症は所謂過酸症でありますから、餘り運動が過ぎると反つて善く無いので、私が之を制しましたが、彼れは仲々聞き入れませず、矢張り先生に示された事を確信して引續き之を實行致して居りましたが、實に生徒が敎師に對する信念の深いことゝ云ふものは非常なもので、恰かも催眠術者が被術者に示した暗示はたとへ如何程有力な人が出て來ても之を打ち破る事の出來ないのと一般であります。

又其用ゆる書物に於ては　其著述者の主義に由て、自然其内容の意味も違つて居るものでありますが、然し一旦自分が科程書として修めた書物の意味は深く其腦裡に注入されてありますから、成長の後までも長く其信念が離るゝものではございませぬ、例之ば私の少年時代は未だ現行の學制以前でありましたから、主に十八史略や、史記の樣な本が科程書でありましたので、自然其中に傑出したる人物例へば漢の高祖だの諸葛孔明だのと云ふ樣な人は非常に豪らい人の樣に思いました、而も其實は隨分歷史上に飾もあるそうですし又西洋諸國では是れよりもまだく上手の人物が幾らもござりますそうですが、而し一旦小兒の時代に信じたことは今でも仲々忘れませず、反つて今度の戰爭中で非凡な英雄の話や、軍略家の事抔を聞きますと、毎に前記の高祖や孔明の事などを聯想して來るのでござります、是れ必竟書物に働き掛けられたる暗示であつて斯る例は世に少

なからぬものと考へます。

又家庭に於きましては何連暗示が實行せられて居るもので、則ち慈父や慈母が其愛兒に言ふことと示すこととは概ね其暗示に外ならぬのでござります、例之ば小兒が餘り泣き叫んだ時には『ソレお巡査が來た：ソレお化けが出る：：一ッ目小僧が顯われる』と云い又餘り言ふことを聞かぬと、母ちやんが內へ行つて仕舞ふ』とか、『乞食の子に遣つて仕舞ふ』抔と申す事もある樣ですが是素より架空の虛言で：：必竟其兒を矯正しようと云ふ慈愛心から出た事とは云ひながら餘り甚しい虛言を吐いたものであります、而かも兒童は其虛言をも信じて泣き聲を止め、非行を改むる樣になりますのは即ち暗示の作用に感應したのでござります、しかも斯樣な暗示が兒童の精神に長く印象して居ると、自然親を信用しない基ともなることがありますから、此は大に注意を要すべきことであろうと存じます。

又世の英雄豪傑抔の幼年時代の事を聞いて見ますと多くは賢母の家庭に育てられたものでありまして、殊に毎夜添乳を與へながら色々な立志談や、戰爭談抔を云ふて聞かしましたのが、深く其兒の精神に印象せらるゝもので、これ許りは終身忘るゝことの無いものであるそうです、詰り其添乳に聞いた暗示が何時までも感應して居るから、後には自然己れが之を現實にする樣な事になる道理であります、但し小兒に何か物事を言ひ聞かするには前記の添乳の樣な場合殊に其眠氣を催した時が一番其精神に印象し易いものでありますから吾人の家庭に於て小兒の催眠時程注意を要すべき時は御座いませぬ。

（衞生）上にも暗示が行はれて居り升則ち衞生と申すことは只に物質的にのみ豫防し、消毒する丈けを以て能事終れりと云ふべきものではござりませぬ、必ずや更に精神的に健全を保つの觀念即ち心理的衞生を併有しなければ、決して完全なる衞生法であるとは申されませぬ、如何となれば吾人々類の疾病と申すものは、決して物質的の原因のみに由て起る

べきものでは無く、其大部分は精神的の障害即ち心理的の病素に由て來るものでありますから、詰り完全な衛生法と申せば、即精神的に且つは肉體的に共に兼備した方法で無ければならぬのでございます、然るに世人の多くは只に物質的にのみ衛生法を盡せば良い樣に思つて居りますから、時に因ると隨分大間違ひが出來る事がございます、今此例證を申上げようなら、世間多々ある事で殆んど枚擧に遑がありませぬが其内お解り易いものの二三を藉りて一寸申述ましよう。

(一)或人牛肉を食した後、他人から『アレは犬肉であつた』と言はれた所が、其人大に神經を惱まし吐くやら瀉すやら、果ては卒倒した事がありますが、是即ち心理的衛生の薄弱なる爲めであつて即ち他働的暗示に感應した消極的現象であります。

(二)壯健なる男子某なる者、或日私の醫院に來て手術を傍觀して居りましたが、軈て刀を執り、肉體を切開したのを見て、彼れは忽ち顏色蒼白て、其場に倒れた事がありますが、是即心理的衛生の堅固ならざる爲め他物的暗示に感じたる消極的の現象であります。

(三)或人曾て風邪を引いて胸部に神經痛を起した時に、自分は既に肺病に罹つたと思い込み、遂にべつたり病褥に就て仕舞い、永らく枕を擡げる事が出來ませぬでしたが是即心理的衛生の不備に基く自働的暗示の作用で、消極的の現象を呈したのでござります。

(四)或肺病患者が、自己は既に不治の病患なるを知つて神氣大に沮喪し、食も通らず歩行も出來ない位になつた時、某醫が策略的に『君の病は肺病で無いぞ』と慰安した所が、其患者は忽ち健氣就いて來て殆んど全快同樣の姿に爲つた事がありますが、是れ積極的暗示の現象であります。

(五)或戰場に於て連日激戰の際、各兵士が勞れ果てゝドーカ一滴の水でもと思つたが其邊りには絕へて水氣が無い、乃で某將校が頓智をきかして梅實の話

を爲れた所が、各兵士は自然と唾液が湧いて來て九死の場合を凌ぎ得た事があると、是亦積極的暗示の作用であります。



治庖會本部敎場主事　安西こま子

▲菠薐草

天然酢かけ

先づ菠薐草を水洗ひして數個の束となし、沸騰湯の中へ投じ茹でゝ冷水にとり、兩三回水を取換へ能く冷して之を取出し水を程好く搾り、根元の處を少々切り捨て一寸二三分の長さに切り、葉先の方と根元の方とを前後して揃へて皿に盛り、其上より天然酢を注ぎかけて侑むべし又天然酢は、橙のしぼり汁に少しく醬油を加へしものなり

▲八ッ頭芋

胡麻味噌かけ

芋の皮を剝き、五六分の厚さに輪切と爲し、龜裂の出來るまで柔らかに蒸し、之を鰹節の煮出汁と醬油とを淡味加減に合せたる汁にて下煮をなして椀に盛り、之に胡麻味噌をかけて侑むべし又胡麻味噌は黑胡麻(二合)を水洗ひして乾きたる布巾の上へおきて水氣を切り、之を焙烙にて煎り、擂鉢にて油の出るまで能く擂り、之に胡桃(五粒)と並味噌(百目)と味淋(壹合五勺)と砂糖少々とを加へて能く擂り混ぜ之を裏漉して文火にかけザット煮立てしものなり若し固きときは鰹節の煮出汁を加へてゆるむべし

備考　蘿蔔のフロフキに用ゆる胡麻味噌も前段の方法を以つてすれば其味ひ甚だよし

▲蠣二杯酢

蠣を目笊に入れ其まゝ水の中へ入れ、笊を振り動

かして能く洗ひ半熟加減にザット湯煮をなして之を鹽酢にて洗ひ（鹽酢とは酢に少しく鹽を加へしものなり）皿に盛り、食むるときに二杯酢をかけ、おろし生姜を添ゆべし又二杯酢は酢に少しく醤油を加へしものなり

▲蠣フライ

先づ鹽水にて洗ひ、次に乾きたる布巾を以て水氣を拭ひとり、メリケン粉を塗し、次に解きたる鷄卵を塗り次にパン粉をつけ、手にて輕くおさへおき而して牛脂又は豚脂にてあぐべし

別法　前述の如く蠣を鹽水にて洗ひ、水氣を去り、中位の鷄卵二個とメリケン粉大匙、山盛一杯と水少く々とをザット攪き混ぜ、並の天ぷらの衣より少しく固き加減となし尚ほ之に鷄卵一個の白味を泡立しものを加へし者の衣として牛脂又は豚脂にてあぐべし

▲甘藷

薄あんかけ

甘藷の皮をむき、六七分の厚さに輪切となして蒸し其まゝ椀に盛り薄あんをかけて食むべし又薄あんの製方は、醤油に少しく砂糖を加へ一寸と煮立てゝ之に鰹節の煮出汁を加へ程好き加減となし、火にかけ、一沸して火よりおろし之に水にて溶きたる粉葛を徐々にたらし込み又火にかけ葛の凝るを待ちて火よりおろすべし但し濃さの加減は甘藷にかけて流れちらざる程にゆるくすべし

▲生鮭味淋燒

鮭を適宜の切肉となし之に鹽を撒りかけ暫くおきて水にて洗ひ、之を白味淋に漬け三十分以上おきし後ち、能くおこり落着たる炭火にて燒き、兩面が燒き上りしとき、新らしき味淋をかけ一寸と炙るべし

▲生鮭のあら蘿蔔煮

先づ鮭のあらを能く水にて洗ひ、水と砂糖と醤油とを合せたる汁にて少しく辛らき加減に味をつけ、別に蘿蔔の皮をむき、厚さ二分程の小口切となし、柔らかに茹でゝ更に鮭の煮汁にて煮るべし

▲ボイルド、サーモン

先づ鮭を適宜の切肉となし、別に深き鍋の底へ玉葱の片を敷き其上へ切肉をおき之に鹽湯を切肉が被る程加へ以て煮而してホワイトソースをかけて侑むべし、又ホワイトソースの製方は牛酪大匙一杯とメリケン粉大匙山盛り一杯とを鍋に入れ、火にかけ、絶へず攪きまぜ沸騰し始めるを待ちて牛乳一合餘と魚の煮汁とを加へドロ／＼の液汁を作り尚ほ之にパセリのみぢんを少しく加へしものなり

▲鯷の燒味噌あへ

先づ鯷（即ちひしこいわし）の頭と腸と中骨とを除き、一回水にて洗ひ、能く水氣を切り、之を三分間程酢に浸しおきて目笊にあげ酢を切りおく、別に並味噌を能く擂り裏漉して更に擂鉢の內面に塗りつけ而して擂鉢を炭火の上にかざして味噌が少しく焦る程燒きて之に砂糖少々とみぢん生姜又は蕃椒を適度に加へて能く擂り混ぜ、更に酢を少しく加へてゆるめ以て前の鯷をあへしものなり

▲甘煮　まろめるのこ

八ツ頭芋

まろめるのこ　は、豚の赤肉を庖刀にて細かく敲き之に葱のみぢんと胡椒とを加へ能く混ぜ、尚ほ之に生雞卵（豚肉百目につき凡そ雞卵一個を用ゆ）を加へ能く混ぜあわして適宜の大さの平たき團子に丸め之を胡麻油にて揚げ、目笊にとり其の上より熱湯を注ぎかけて油ぬきを爲し而して之を清酒と醬油と砂糖少々とを合せて煮立たる中へ投じ味をつけしものなり

八ツ頭芋　は、皮を剝き、七八分の賽形に庖丁をなして之を沸騰湯の中へ投じてゆて少しく固き中に鍋を火よりおろし其まゝ蒸らしおき、芋に龜裂の生ずるを待ちて靜かに湯を切り（鍋の內面に泡滓が着きいるときは布巾にて拭ひとるべし）之に砂糖と鰹節の煮出汁と醬油とを加へ以て煮ふくめしものなり

▲吸物　賽形鮭

鹽鮭の肉を厚さ四五分の賽形に庖丁をなして之を少しの水を以て湯煮を爲し、湯を切りて五個づゝ椀

に入れ其上より橙の搾り汁を垂らしおきて汁を注ぎ尙ほ之に蘿蔔の搾り汁を一二滴落し而して俯むべし汁の製方は、鰹節の煮出汁に鹽少々と醬油少々とを加へ（鹽味に少しく醬油の味を持つ加減になす）一寸と煮立しものなり



大家談叢

健康兒の標準（前號つゞき）

醫學博士瀨川昌耆氏講話

▲增量一定の標準　哺乳兒時代は保育が尤も困難で一番死亡するのも此時代であるが、又一番發育の早いのも此時代である、健康か虛弱かは一定の增量を標準とし、其標準より體量が少なくば、其の哺乳兒は虛弱と見做し、一應專門醫に相談しなければなるまい、左れど一定の標準より體量が少なからざれば哺乳兒は健康兒であります、扨茲で體量增加の一定の標準をお話し致さう、健康なる哺乳兒なら、生後半ケ年即ち六ケ月目には生れた時の目方の丁度二倍になります、一ケ年即ち十二ケ月目には、生れた時の目方の三倍に達するもの、夫れ故出生の際生兒の體量を量つて置くのは其の小兒の將來健不健を卜するに尤も大切な事ではありませんか、デ若し此の標準より尠き目方なら全く發育不充分と推斷しなければなるまい、夫れから尙其の小兒が六歲に及んで滿一歲の體量の倍になり十四歲の年齡には滿六歲の倍になる、此の標準をも記憶して置くは大切なことである

▲發育不良の生兒　併し發育の良き哺乳兒は六ケ月目に達せずとも四ケ月目位で出生した時の體量の倍に達することもある、之は頗る健康兒の徵候と祝さなければならぬのです、ケレども發育の順序には種々な變則のあるもので生れた時發育が惡いからとて決して落膽するには及ばぬ、私の實驗上に斯ういふ

お噺の種があります、現に私の子供でしたが出生の時は所謂假死の生體で、息は絕えて居つたのです、けれども何うか救からぬ事もあるまいと人工蘇生術をもつて漸く呼吸を吹返へさせたが、ナニシロ斯ういふ次第であるから、其當時は發育も不良で、生體も至極小さかつたのです、斯んな有樣でも是迄の例によつて健康とならぬことはないと一生懸命で大切に注意して保育したから其結果遂に生後四ヶ月目にして、出生當時の體量の倍に達しピン〳〵した丈夫な兒になりました、斯ういふ例もありますから、生れた時發育不良なりとて總て育て方一ッと心得て貰ひたい

▲體量を量れ　健康なる哺乳兒の體量は日々に增加するもの故、少なくも一週間に一度とか、又は二週間に一度は必ず體量を量つて見るのは保育上是非實行されたいものです、萬一其都度々々に增量しなければ、必ず哺乳兒の身體に缺點があるとか、或は育兒の方法が惡いとか、何か素人には分らずとも病氣がある事と推定しなければならぬ、斯ういふ推定を下し得るのも要するに手數をかけて體量を量ることの賜で、若し體量を量らずに置けば容易く之を發見することが出來ず、其兒が甚しき衰弱とか、發病するとかして後大騷ぎするやうになる、斯る面倒を避けるは哺乳兒の健康上の爲め故是非體量を量ることを親々が實行されるやうにしたい

◎生齒と病氣

▲增量の割合　哺乳兒の體量の增加は生後最初の六ヶ月はヅン〳〵肥つて早く增量するものであるが、夫れから後の六ヶ月は其の割合に目方が增えない、即ち目方の增え方が遲いのです、ソコで哺乳兒時代の增量の割合をお話し仕て置きませう前にも申した通り哺乳兒時代とは生後一年間位の事であるが月が重ねるに從ひ次第に增量の割合が減じて往く、左に示すは平均一日增量の標準で、之れを御覽になつても生後一ヶ月の平均一日の增量と十二ヶ月目の增量とは餘程比例が違ひます、之れは丹精して哺乳兒の

體量を量る親々の御參考にもならうと思ひます

哺乳兒平均一日の増量

	増量	同上日本の目方		増量	同上日本の目方
	瓦	匁分厘		瓦	匁分厘
一月	二五	六、七五	二月	二三	六、二一
三月	二二	五、九四	四月	二〇	五、四〇
五月	一五	四、〇五	六月	一四	三、七八
七月	一二	三、二四	八月	一〇	二、七〇
九月	九	二、四三	十月	八	二、一六
十一月	八	二、一六	十二月	六	一、六二

▲生歯と素人の考へ　哺乳兒は一定の標準通り體量も増え健康で育つて往く内に生歯の時期となり哺乳兒は歯牙が生える樣になる、一體此の時期は哺乳兒の身體に稍もすると變調を來すもので、健康な哺乳兒でも機嫌が惡く發熱などして病體に陷ることが有勝のものです、之を生歯困難と云ひ、歯の生へる時は容易くうまく生惡い事を申すのであります、素人の親達は此徵候を歯牙の生へる爲めだ、歯が齦の肉を突破つて出てから哺乳兒は熱が發たり、機嫌が惡かつたりするのだ、歯の生へる爲めだから、少し位病狀を呈しても害はない、驚くには及ばぬと斯う言つて左程心配せぬ人もあるが何うも斯んな考へて安心しすぎて打捨て置いては遂に生命に危險を及ぼす樣な事があるのです、哺乳兒の爲めには餘程大切な場合であるから、此の生歯時期に病氣の模樣が見えたら速に專門醫の診察を求めるが宜い

▲生歯困難の時期　哺乳兒が此一定の時期に發病する原因に就ては近頃醫師の間に種々な議論があつて說は一定して居らぬが私は實驗上生歯の爲め斯くの如き疾病の起るものでないと信じます、夫れが證據にはまだ歯牙が生へぬ哺乳兒にも斯る徵候を呈する事は往々あるでありませんか、尤も或る場合には歯の生へるので其の刺劇を蒙り身體に斯る變調を生ずる事がないとも限らぬから、兎に角生後四五ケ月目即ち門歯の生へる頃は母親なり保育者なる每日哺乳兒の樣子に拔目なく注意を怠らず、樣子が怪しいと思はゞ機敏に夫れを洞察し醫師の診斷を待つて差圖を受けるのが安全の策と考へる、左もなくして萬一油斷をなし俄に容體が變つて惡くなつたら取返し

の付かぬ事のある時代です

▲生歯の遲き兒　歯牙は一定の規則によつて生へるものであるが、中には變則な生へ方の哺乳兒もある、夫れが證據には出生當時から既に歯のあるもあるが之れとても別に氣に懸ける程の事はない、唯偶然の出來事で、病氣の爲と云ふのでないから……去れど體質の尫弱なる哺乳兒は自然歯の生へ方も遲い故、若し生べき時期を經過しても容易に其徴候なき時は或は身體發育上缺點なしとも限らぬから、如斯場合には一應醫師に健康診斷を受ける必要がある、古しは歯牙の生へて前には、歯肉を切つて樂に歯の生へる爲めだと云つた時代もあつた、之れは何んの爲めかと云ふに、前回にも申述べた生歯困難の時期には哺乳兒が色々な病氣に罹つて往々生命に危險を迫ぼす事さへある此の原因をば歯の生へるので齦の肉を刺劇するため發熱などするのだと斯う考へて、歯肉を切つたりしたのだ、ケレども醫學の進歩した今日から、是れは誠に愚劣なる手段とより考へられない、歯の生へる時の徴候は、熱が出たり、下痢したり、咳が出たり、涎を多く流したり、母親の乳首を嚙んだり、ブツブと無暗に吹いたり、甚しきに至つては痙攣たりする事もある、斯ういふ容子が見えたら間もなく歯の生へる事と思ふが宜しい

▲歯牙の生へ方　處て歯牙の生へた時期と其の順序をお咄し致さう、先づ第一に生へるのが下内門歯で之れは二枚眞白い奇麗な歯で、生後四ヶ月から十ヶ月間位迄に生へるのが通常なれど、稀には四ヶ月前にも、又十ヶ月後にも生へる事がある左れど孰れにしても此位の時期なら心配にならぬ第二番目には上内門歯が二枚、之は大略八ヶ月目から十二ヶ月目位の間に生へて、第三番目に下外門歯二枚、引續いて上外門歯同じく二枚、是等は一ヶ年の畢りより二年目の五六ヶ月間には生へる事になつて居る、夫れから第一臼歯が四枚生へて次ぎに犬歯四枚、之れは第二年目のなかば過ぎから終り頃迄、第二臼歯四枚が生へるのは第二年目の十ヶ月頃より第三年目のな

かば頃迄、以上斯う云ふ順序に其の時期を考へれば誤りなきに近いのである

▲充分安眠せしめよ　扨哺乳兒の一般衛生法を説明する前に、健康なる時の状態を述べやう、不健康なる哺乳兒は必ならず此の狀態に背いて居る事を心得ねばならぬ、先づ第一は睡眠の事です、睡眠は發育上尤も大切なことて、睡眠を缺くやうては虚弱であるか、病氣があるか、何か健康を害して居るに相違ない、故に哺乳兒は夜分充分安眠し得る以上は晝間幾ら眠つても悪い事はない、睡る分には澤山眠らして置く事が良いのです、併し健康兒の眠り方があるが夫れを次回に述べませう　（つゞく）



●脚氣の新療法

醫學博士陸軍三等軍醫正大久保悳作氏は明治三十七年八月以來大石橋にあつて脚氣病發生の狀況に注意し治療法に於ては從來の方法を用ゐ其經過を調査せしに其治法にては氏の意を充たすに足らず當時氏の理想に於ては少くも脚氣の原因は細菌若くは急性衰弱の結果より來るならんと胸案し陸軍一等軍醫正岡田國太郎氏と共に廣島豫備病院千田町分院にてこれが研究に從事し本年三月十一日に至り脚氣の原因と認むべき球菌を發見して其筋に報告し爾來共同して菌の性質を檢索したりしが岡田一等軍醫正は陸軍省の命により轉任せられしかば氏は尙其研究を繼行したりしに遂に治療免疫の血淸を製出せることを得

諸種の實驗を經て此程之を公けにせられたり實に醫界の最大名譽と云ふべきなり要するに今日迄行はれ處の療法は何れも幾分根據なきにあらずといへども全く對症療法と云ふべきものにして敢て固有療法と云ふことを得ずと

▲自體に於ける脚氣病試驗　氏は脚氣病の如何なるものやを確定せんとの心を起し之が研究に從事したるも同時に自ら信ずる所の重球菌は果して脚氣病を起し得るや否やを確めんと欲し醫學の泰斗たるシユンヘン大學教授ペツテンコーフエル氏が虎列剌菌を飲用せし例にならひ本年五月二十日重球菌を自體上膊に注射し六月七日頃より胃部壓痛脈膊九十を算し其他脚氣の症狀を呈し爾來稍增劇せるも勤務を廢せず七月四日に至り氏の發見せる診斷液○、五瓦を上膊に注射し豫て採取し置きたる血清一瓦を注射し更に七日に至り一瓦を注射せり然に十日に至り氏の脚氣病狀は全く去るを自覺せりと

▲治療上の實績　氏は右の脚氣治療血清を千田町分院の脚氣患者並に民間に於ける脚氣患者二十名に對し之を使用したるに注射後三乃至十五時間にして脈膊呼吸生理的に復し肺動脈第一音に不純粹音を表はし肺動脈第二音の强盛去り自覺症候として精神著しく爽快となるを耳にし食慾頓に增進し浮腫にありては早きは十七時間遲きは二十四時間より漸次減少を始め尿量著るしく增加し强酸性の尿は弱酸性の尿となり便通は二十四時間乃至四十八時間より生理的に復し運動神經系統の動作漸次容易となり殊に著効ある際に方りては注射前少しも運動し能はざるもの或は床上に起座し能はざるもの注射後凡二十四時間にして歩行若しくは起座の境遇に達し知覺の異常や鈍痲は廿四時間乃間四十八時間後に於て漸次輕減を始め日ならずして消失す殊に氏の實驗せる患者にありては醫師某が二ケ月以上治療せるも効なき中度の患者にありて氏の血清使用を乞はれ注射するや二日にして既に容易に業務に服し得たる酒店の主人一名六日目にして業務に服したる馬丁二名三日にして

脚氣症狀の全く去りし中學校生徒二名二日にして業務を執るを妨ぐるに至らざりし會社員一名を實驗せり而して氏の自から實驗せる病院內外患者にありて一名も刺戟症狀並に副作用を認めたることなしといふ

●海水の效力

佛國にては海水を研究する醫師續出し其結果によれば海水內服は興奮の効あり麭麵を製するに海水を混すれば食慾を增し體力を增す又百五十瓦乃至二百瓦は下腹劑として頗る良好なりと又フェトル博士は海水に炭酸を混じて不純分を分解し鹹味を去りたるものにて慢性胃加多兒糖尿病及び小兒の消化不良等に用ひ常に食慾と體力とを增すの効ありしと

又スゼゴー及びクルの二氏も海水の內服は身體機能を活潑ならしむる功ありとし且胃病に苦しむもの、體力を增し滋養の効あるのみならずクル氏は肺炎加多兒を伴へる氣管支炎患者に多量の海水を服用せしめて殆んど之を全快する迄に至らしめしと又他の博士は海水を狂人に服用せしに頗る効果ありしと又シモン及カントン兩氏の報告によるに海水は結石病に効能顯著にして十八名の同病者中海水を服用せしめて奏効せざりしは僅かに三名に過ぎざりしといふ



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　四國の通常會員

問　私妹結婚致してより兎角流產の癖有之今回姙娠致し候得共又々流產かと心痛致し居候豫防法御敎示被下度願上候

答　流產は豫め防ぐことの出來るのと出來ぬのとあ

ります先づ注意すべき原因としては多くの子宮病梅毒、不慮のころび劇しき運動や長途の歩行や劇場集會などに長く坐し居ることや下劑の用ゐ過ぎ精神感動、虚弱劇しき咳嗽、用ゐなれぬ強き飲料濃き茶を多く飲む等は禁物で流産の癖ある御方は充分の注意が緊心です

質問者　新潟一會員

問　内科の病氣で診察を乞へば眞先に肺を診察遊ばすは何の爲めでしやうか諸病は皆肺に關係をもつて居るでしやうか

答　御醫者が診察しますのには自から診察法がありまして勿論心臟や肺臟は尤も必用の處ですから充分に診察せねばならぬのですが醫家には四診と申して四ッの秘訣があります第一には容貌や顔色を見ることと之を望診と云ひます第二に病狀經過を問ふ之を問診といひ第三に體中尤も緊要なる部分なる胸や腹を叩いて呼吸心臟の動悸を聽きます心臟の如きは體内の血液が循環して來ますと之を新しき血として又も體中に押し送るのですから身體に異常がありますと自然心臟の鼓動が異いて來ます譯です又肺なども同じことで呼吸に異常のあり易き事ですからそれで心臟や肺などを必らず見るのです之を聽診と云ふます第四に脈を見たり諸部を按見するのを切診と云ひます此他痰や大便小便など顯微鏡などで檢査するのでありますが要するに心臟肺臟等は身體の要部であり又此病に罹るものも多いのです

質問者　新潟白山浦一會員

問一　肺結核患者が魚類の鹽辛類、うに、納豆、甘酒、チース、殺菌せぬ醤油ビール等を飲食しても害ないですか

問二　肺結核患者の居つた室を何等の消毒をも施さずに置きましたら病菌はいつまでも生存して居ましやうか

答一、御質問の食物は別に害ありますまいが元來肺病患者の飲食物飲食器等は何れも別にして置き

ませぬと傳染しますから其點は充分に御注意を願ひ升殊に塩辛の如き箸を付けては又食べ〱と云ふ樣にすることはいけぬ夫れを他のものか食するなどは危險です何れも食物は食べ得られる丈食べさせて食ひ殘りは棄てゝ消毒するようにせねばなりませぬ酒類はあまりのせぬ方がよいのです

答二　肺結核病者の居つた室を何等の消毒を施さず置くのは危險です其室内に充分日光をさし入れて日光消毒が出來ますかさもないと寧ろ蕃殖する場合がないと云へません何人でも肺病患者の器物衣類盤迄も劇しき日光に充てゝ消毒なさるがよいてしやう

●山形の阿部さまへ

答　御質問の要領によれは通例の痔と思はれます痔にもいぼし（痔核）はしりじ（血管より出血するもの）あなじ（痔瘻）腸に穴の出來るもの穴の數多あるを「はすじ」と云ひます（痔瘻）と云ふのは多くは結核ですから肺病と同一によく醫の診察を受けて肺の手當もせねばならぬのです

其他脱肛なとゝ云ふがあります何れも外科手術を要します注射療法で治すとの説も聞きましたが根本的や否や其邊は記者は信じません

質問者　本郷一會員

問　俗に申す鼻かぜには如何にせば鼻汁の出るのを防ぐことが出來ますか伺上候

答　稍々溫かき御湯で鼻道を御洗ひなさい其洗ひ方は微温湯を鼻より啜り口に出すにあり併し其時は一種の痛みあれば温湯に浸したる布て鼻を上より蔽ひ置くをよしとすかくせば鼻汁のでたり鼻道の閉塞することとありません序に氣管支が寒冒に罹つたら油紙にて頸を卷き其上を溫　布にて更に卷くべし氣管支の炎衝は上部に誘導せられて其効能著るし



中外彙報

▲日本赤十字社成績　日露開戰以來同社の成績左の如しと

一内外病院船に派遣したる救護員　四千九百餘人
一救護したる患者總數　七千餘萬人
一救護費用　四百七萬餘圓
一職務に斃れたる救護員　七十八人
内譯醫員三、調劑員三、書記二、看護婦長二、看護人長四、看護婦二三、看護人三一、輸送人一〇

▲癩病施療院擴張　英國人リデル孃の設立に係る熊本癩病施療院は多年經營の結果追々收容者の増加を來し施設擴張の必要あり大隈伯澁澤男等專ら之に助力し一般篤志者の援助を得て擴張の目的を達せしめんことを期し去六日午前十一時半より日本橋坂本町銀行倶樂部に有志者の會合を催せり

▲癩病豫防取締法　内務省衛生局に於ては本期議會に癩病豫防取締法を提出することに内定し過般來種々取調中の趣きなる調査結了の上は省議を經て決定する由

▲豫備病院患者現在數　日露開戰以來各地の豫備病院に入り治療中の最近患者數左の如し

	在院	轉地	計
東京	四、五二二	五〇五	五、〇二七
仙臺	九五五	五〇	一、〇〇五
名古屋	一、五三三	一六二	一、六九五
大阪	一、五七二	一二六	一、六九八
廣島	五、一六一	一四九	五、三一〇
熊本	一、〇六一	一三三	一、一九四
旭川	五二八	｜	五二八
弘前	九五〇	二八八	一、二三八
金澤	二、〇六九	三二六	二、三九五
姫路	一、二二一	二〇一	一、四二二
善通寺	一、五八五	二九二	一、八七七
小倉	一、四〇三	九九	一、五〇二
合計	二二、五六〇	二、三三一	二四、八九一

▲同仁醫學堂創設　同仁會にては清韓留學生の爲め同仁醫學堂なるものを設立せんとて目下計畫中の由なるが場所は多分早稻田大學構内に置くこととなるべく其卒業期間は醫學科四ヶ年藥科三ヶ年の筈なりと云ふ

▲戰役と精神病者增加　日露戰役に際しては從來の戰役に比し負傷後將校中に精神病者增加せる趣きに付吳醫學博士は過般來其現象に關し各豫備病院に至り種々研究中なりと

▲分院閉鎖　東京豫備病院の分院中千駄ヶ谷分院は過日閉鎖され其主任者たりし獨逸の篤志國手一行は旣に歸國したるが尙ほ氷川分院は去る十五日廣尾分院は本月下旬を以て閉鎖さるべく戶山澁谷の二分院は或は尙ほ當分存置さるべきかといふ

▲醫術開業試驗及第者　本年第二回醫術開業試驗受驗者中去月廿七日試驗委員長より長直一外六十八名に對し及第證書を授與せられたりき

▲韓國の痘苗製造　同仁會にては去七日午後六時より委員會を開き韓國に於ける痘苗製造及び種痘普及の方法に付き協議せしが本件は丸山醫務顧問より依賴によるを以て取急ぎ實行に着手する筈

▲秋季淸潔法開始期　例年の如く秋季の市內淸潔法施行も去月二十一日發表されたる施行規則により着手せらるゝに至るべきが右は去る十五日より開始の運となり各區とも目下夫々着手中なり

▲傳染病硏究所の移轉　內務省所管傳染病硏究所は豫て芝區白金臺町一丁目三十九番地に改築工事中の處略落成に付去十日愛宕町より同所に移轉されたり病室其他は尙建築中なるを以て來三十九年四月以後にあらざれば入室を許可せざる由

▲香港の日本醫開業　香港にては是迄日本醫の開業を許さゞりしが今度英國政府は右の舊慣を破りて許可することゝなりしより馬島醫學士先登第一に開業する由にて同地は日本醫に取り頗る有望なるべしと云ふ

▲神戶の黑死病　神戶市海岸通り五丁目に於て去十日二名の黑死病者發生し蔓延の兆ありとの電報內務省に達したり右に付衛生局にては技師を派遣し豫防撲滅を圖ると

▲深川黑江の有菌鼠　深川區黑江町廿三番地稻荷神社際に設置しある投鼠箱より發見せし斃鼠は去十日有菌鼠と確定せしが同所は曾て屢ペスト患者を出せし場所にして門前山本町及び蛤町との中間に當り病毒最も潜伏し易き所なれば目下其筋にては消毒費用に付き協議中の由

▲精神病者の園遊會　去月二十九日午前九時より巣鴨精神病院內に同病者慈善救治の爲め盛んなる園遊會を催され總ての設備頗る整ひ患者の芝居劍舞踏作り物等あり例の芦原將軍も當日は肋骨のシャツ一枚となり意氣頗る豪放大に斡旋しつゝありしは人々の目を惹しといふ兎に角非常なる盛會にて患者の如きも之れが爲め精神を右の慰安に集注して大に成績佳良なりといふ

▲慈惠醫院祝捷園遊會　同院看護婦中四十名日本赤十字社第二臨時救護院に編遷せられ平和克復の爲め此頃歸院の爲め其慰勞として一大園遊會を開き有栖川宮妃殿下を始め貴女紳士來場高木院長によりて式を行はせられ餘興には三番叟五人女引返し活人畫、勸進帳桃太郎凱旋踊、其他數番の踊あり來會者千餘名にして頗る盛會なりしと

▲日本赤十字社總會　來二十日の同會は上野公園に於て開催せらるゝ豫定にて各地社員の申出は其數既に十一萬餘に及べる由なれば當日は極めて盛會なるべし

▲新案家族合せ　本鄕駒込西片町十番地なる內外出版協會より發行五枚を一家族として十家族の合せ方の面白い嶄新の遊び札なり定價十二錢郵稅は二錢御正月の御年玉物などには適當なるべし

大日本婦人衛生會記事

●本會秋季大懇親會

十一月四日午後一時より牛込區早稻田なる大隈伯爵の御好意により同邸に於て秋季懇親會を開きたり當日は質問會月例會など相加はりて開催せしかば玆に一大懇親會となりたり折惡しく前日來の雨天霽れやらず終日降雨なりしかば園遊の豫定は外れしも本會員を初めとして外國貴婦人の多くは定刻より參集し午後一時半には本會總裁東伏見宮妃殿下にも御臨場あらせられ午後三時迄は溫室の觀覽蓄音器の演奏

丸一太神樂の曲藝等あり陸軍々樂隊は庭前の小山にて始終演奏して興を添へたり三時に至り一同廣間に參集するや鍋島侯爵夫人の挨拶大隈伯爵の演説（別項參照）前米國公使夫人ミセスバックの答辭あり右終り一同休憩尚大神樂の演奏等あり恰も好し後庭の菊花は伯爵の丹精を凝らされたるものにして今を盛りと咲き揃ひ大に來集の歡を惹けり當日の出席は終日の雨天に拘はらず鍋島會長濱尾副會長鳩山高木岡田幹事以下會集五百餘名に達し頗る盛會なりき

因に記す　前米國公使バック夫人は日本に同情厚く今回再び來遊せられ我婦人社會の爲め讃歎せられんとの篤志家なれば當日は特に同夫人を招待したる次第にて質問會月曜會よりは紀念の爲め日米國旗を交叉し中央に菊花をあしらひたる純金七寶製の徽章を贈りて歡迎の意を表しなり

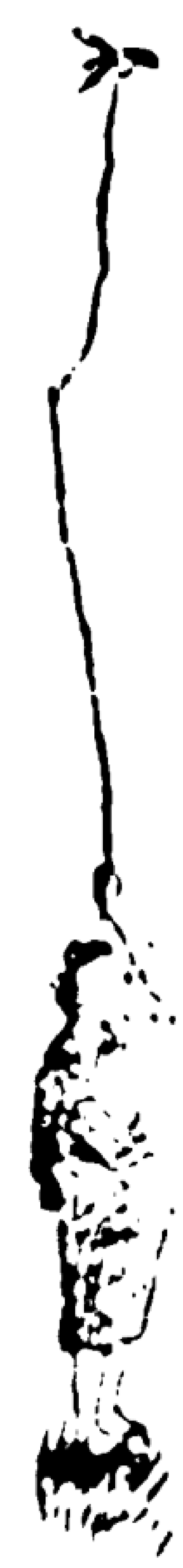
當日陸軍戸山學校軍樂隊の演奏曲目は左の如し

奏樂曲目

一行進、米國旗と永久　作者　スーザー
二大序、黄金賞牌　同　グルトネー
三歌劇、タンホイゼール　同　ワグネル
四美しき宇留阿多ヴアルス　同　アルガチー
五行進、前後の人　同　スーザー
六歌劇、ミギヨンの獨吟　同　トーマス
七マジユルカ、心と思案　同　ストロース
八ケーキボーク陶飩の跳　同　エルク

當日の寄附

一サッポロ炭酸水　三ダース　鳩山春子夫人



◎大日本婦人衛生會に於ける

大隈伯爵演説

本日は婦人衛生會婦人質問會及月曜會と云ふやうな婦人の有力なる方々が御集りの大會を開き、且つバック夫人が再び日本に御出になつたに付て歡迎を致す爲めに私の邸園に於て會を開きたいと云ふことでありまして、是れは私の最も光榮とする所であります、實は此節の氣候は野外の御樂みに最も好い氣候

でありまするに遺憾ながら本日は雨天の爲に狹隘なる家屋の內に貴婦人方を御招ぎ致す樣な次第で、特に甚だ不行屆で定めし不愉快であられやうと深く恐縮致します、斯く御集りくだすつたに依て私が此家を會の爲に貸與したのに付て自から主人と云ふ地位に立ちまして會員に代りまして一寸一言申します。殆ど二十箇月に涉りました悲しむべき戰爭も幸に過去つて、最早平和となり、今日は誠に日本及び世界に取つて悅ぶべき平和の時と相成りました、元來戰爭は男性で平和は女性である、此平和の事業に當るべき御婦人方が今日平和の事業に關する大會を開かれ、殊に最も日本に同情を表せられた所のバツク夫人を歡迎すると云ふことに就ては私も實に悅ばしいのであります、殆ど十年以前嘗て米國が西班牙と戰爭を開かれて不幸にも平和の破れたことがあり、其時に於て竊に遺憾に存じました、然るに當時バツク氏が亞米利加合衆國を代表して日本に御出でになつた、其時には私は外交の當局者でありましたが、今將に米西兩國が干戈を開き平和が破れんとする時で或は日本と布哇又は菲律賓等に於て種々面倒が起りはせないかと云ふ心配が米國に存した時でございました、其時に大統領マツキンレー氏はバツク氏が撰擧及其他の公事に盡力して健康をも損せられて居るにより氏に對して「日本は氣候の良い國で、日本人は氣質の善い者である、日本は新文明の勃興する國である、斯の如き國に公使として赴かるゝことは餘程愉快なことで、今や他國と面倒が起らんとしつゝある虞れもあるか知らぬが、それは決して心配するには及ばぬ、日本人が面倒を起すと云ふやうなことは決してなからうと思ふのである、安心して日本へ行つて充分に日米兩國の交際を愈々親密にせらるゝやうに」と云ふことを當然の訓令以外に注意をしたのであります、所でバツク氏は悅んで日本に御出になつたさうである、而して殆ど數年間最も日本に對して同情友誼を以て公私の間に兩國の交際に力を盡し、又バツク夫人は公の職務若くは私に於ての日本

に對する十分なる同情を表し、且つ種々今日成立つて居る所の質問會月曜會と云ふが如き會合、若くは公使館に於て度々會を開かるゝと云ふやうなことて、日本の婦人に大なる助力を與へられたと云ふことに就ては、深く謝しまする次第であります、然るにバック氏を合衆國の代表者として送られ、殊に愉快に種々の注意を與へられた所のマッキンレー氏は不幸にも不慮の災厄に遭ひ、日本の良い氣候に健康を養ひ、且つ日米の交際愈々親密にせんとする所の意を以て臨まれた所のバック氏は、不幸にして逝去せられたのである、日本に於ては如何にも遺憾であつたであります、それてバック夫人に對する日本の婦人は勿論、國民の同情と云ふものは非常に強く起つて、一般の國民も此不幸を悲しんだのであります、然るに再びバック夫人が日本に御遊びになると云ふことを聞いて、種々の婦人會の御方々は衷心の悅びを以て歡迎致し、恰も日本の陸海の勇士が敵に向つて奮闘した如き有樣である、日本が歐米の文明に接してより爾來日尚ほ淺い時分であり、且つ時を經過する毎に次第々々に東西の文明が調和するは、先づ第一に物は必要より導かるゝので、日本が歐米の如く進歩したのは、物質的の文明或は科學であるとか何であるとか云ふ力も認めなければならぬ、併しながら精神上の事に於てはどうしても後に遅れるのであります、殊に婦人の問題と云ふことは、實に殆んど國民の基礎である、其大切なる婦人と云ふ問題がどうしても後に遅れて居る、それが近年に至つて日本の婦人も自から自分の地位を自覺し、男子も亦今日の婦人の地位と云ふことに重きを措き、今日世界に赫々たる功名を現はしむる所の勇敢なる百萬の軍隊を産んだ所の母は日本の婦人である、將來の日本が武力のみならず文明の上に道徳の上に文學の上に有ゆる風俗の上に現はすべき基は何處にあるかと云ふと、現在及び將來の婦人である、是等日本の婦人方は衞生會に於ても亦月曜會に於ても其他教育會に於ても、此社會に立ち家庭に立ち教育に立ち、風

俗の上にも或は文學の上にも、有ゆる藝術の上に力を盡さるゝてあらうと私は信ずるのである、而して國の風俗の上にも平和の上にも偉大なる勢力が此婦人より多くは生ずると私は深く信ずるのであります、今日は幸に宮殿下も御臨みになり殊に英國の代表者の御夫人、及白耳義國の代表者の御夫人等、政治上若くは社會上に大なる地位と關係を有つた御婦人方が御臨みになつて居らるゝ事は實に日本の婦人の爲めに深く感謝すべき次第であります、東西の文化は次第々々に接觸するに從つて同化するのであります、凡そ國の文明は決して武力のみで成立つものではない、又物質的の文明と云ふものばかりで、國民も國家も其平和と繁榮の基礎を固くすることが出來るものでないと信じます、國の文明の基礎は、道徳の上に於て一國の善良なる風俗家庭から光輝を放つと云ふ有様にならなければ、一時光榮ある歴史も長く後昆に示し世界に輝くものではありませぬ、今日は妃殿下を始めとして大に勢力あり又大名譽あるバック夫人英國公使の御夫人及白耳義國公使の御夫人等の方々が御出になつたと云ふ事は此婦人社會の大事業を御助力なさると云ふ御高義によるので實に日本の婦人社會に取りて一大奬勵でござりまして日本に取つて最も悦ぶ所であります、依て今日此大會及バック夫人の歡迎をするの祝辭に代へます(完)

バック夫人の答辭

今日は御丁寧なる御招待を受け厚き御饗應に預り且つ鄭重なる御挨拶を蒙りまして何共感謝に堪へませぬ次第でございます、私も此前五ケ年程御國に滯在を致しましたが、最初私共の參りました時には大隈伯が外務大臣でございまして、其時から深い御交際を忝ふした次第であります、それで貴婦人方にも色々御懇切なる交際を蒙りまして、非常に有難く存じて居ります、それで又今日も此度再び皆さん方に御目に掛りたいと存じまして御國に參りました處皆さん方より相變らず深き御同情を以て御歡迎を蒙りま

して、實に有難く感謝致します、又今日に於ても亦將來に於ても皆さん方と度々御目に懸て私共の出來ます丈けの力は盡したいと存じます、依て御歡迎の御挨拶まで一言申上げます

▲特別賛成員の昇等　高崎支會の爲め創立以來盡力せられたる橫井忠國氏は今回戰役に十三師團に屬し出征せられしが三等軍醫正に昇等せられ今や無事凱旋せられたり

尙星野葆光氏にも二等軍醫正に昇等せられしと聞く何れも無事凱旋せらるゝは本支會の爲め慶賀して措かざる處なり



高崎支會報告

●第三十七例會

十月八日(日曜日)同市高等小學校內に開く午後二時星野會長開會を告ぐ當日講師本縣衞生課長澄川識三郎君登壇肺結核と云へる演題にて結核菌の來歷及び傳染の經路機會東西該病の比較一般患者と死亡比例等を擧げ該病の恐るべき急性傳染病の比に非ざる事を懇說せられ最後に豫防法を懇々說明せられ大に會集に感動を與へられたり午後三時三十分閉會を告ぐ此日や天氣淸朗殊に出席會員多數にして

役員側には　齋藤、三橋、星野、本多、馬渡、相川、相澤、淸水、高草木、諸氏

講師には　澄川、乾、土谷の三氏なりき

●第三十八例會

十一月十二日(日曜)第三十八例會高等小學校內に開く午後三時開會講師醫學士津久井省己君「萎黃病と舞踏病に就て」と云ふ題にて第一萎黃病の病理症候を懇說し家庭に於て注意可及的早く發見し速に醫療を施せば容易く癒る第二舞踏病の病理症候を詳細に述べ是又家庭に於て注意し早く醫治を乞へば治癒する等を述べ該二は病當地方に於て屢々見るとあり依て本會々員の諸姉に注意し置かば多少益するとあら

んと例の能辯を振へり壇を降れるば同四時なり本日出席の役員は

星野　齋藤　三橋　本多

茨城支會報告

●十月例會

十月廿九日日曜日午後一時より水戸市大町高等女學校内にて開く

一、開會の辭

二、唱　歌　　金剛石

三、家庭に於ける兒童敎育　　茨城縣新治郡視學　原　君

四、音樂バイオリン獨奏　　會員　牛尾　源子君

五、餘興　長刀　　會員　大井すゞ子君

外　一　名

右四時半閉會出席會員數十名

新潟支會報告

●十月例會

十月二十九日午後一時より新潟市師範學校附屬學校に於て婦人敎育會衞生會聯合の上例會を開催し

如何にして智識を收得すべきか　　新潟婦人敎育會理事　宇佐美　春子

健康法の二要素　　講師　長井　千尋君



●本會入會者

○事務所へ申込

●赤坂區新町ノ三　　通常會員　松尾　常子

●淺草區三間町九共公看護婦會　　特別會員　中島　照子

●仝　所　　特別會員　阿部　榮子

●兵庫縣美嚢郡口吉川村之内槇村　　贊成員　中富源之助君

○芝植村まさ子紹介

●芝區神谷町十八　　通常會員　岡村　やす子

●芝區巴町十八　　通常會員　矢島　たみ子

○麹町西尾京子紹介

●麹町區飯田町三ノ二十五　　通常會員　蒲山　かの子

○横井忠國君紹介

●千葉縣佐倉町宮小路六十八横澤方　通常會員　中山　よし子

○長野横内岩子紹介

●長野縣東筑摩郡島村字堀金　通常會員　吉澤　とみ代子

○麹町北代幸子紹介

●麹町區紀尾井町三　通常會員　奥田　綾野子

○幹事三浦紹介

●神田區南甲賀町龍鳴館方　終身會員　山中　てる子

○小田川みつ子紹介

●牛込區中里町二十七　通常會員　岸田　つる子

○ドクル佐藤運雄君紹介

●本郷區彌生町二番地　工學士　後藤　氏夫人

●仝　所　仝　井上　氏夫人

●茨城支會入會者

○川口まさ子紹介

●茨城縣水戸市　通常會員　淺沼　てい子

●高崎支會入會者

○高山はる子紹介

●仝市上和田町　通常會員　山崎　しげ子

●仝市堰代町　通常會員　岩澤　錦子

●仝市柳川町百八　通常會員　小島　ふじ子

○服部こと子紹介

●仝市通町二十三　通常會員　佐々木こう子

○川村かね子紹介

●仝市八島町　通常會員　横山　よし子

○相澤小松子紹介

●仝市羅漢町　通常會員　高野　いせ子

○

●再入　通常會員　野口　りう子

○戸塚民子紹介

●高崎市新町十七番地　通常會員　内川　たね子

●新潟支會入會者

○評議員梅木しづ子紹介

●新潟市上旭町　通常會員　大島　しづ子

●仝市學校町通二番町六番地　通常會員　宮原　こと子

●姓名變更

市川　あい子改　天野　あい子

土屋　はつ子改　土屋　よし子

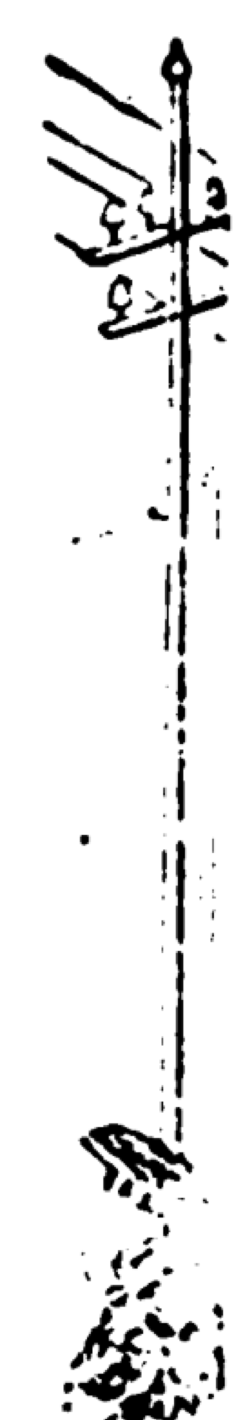
村上　すき子改　畠山　すき子

轉居

●京都兩換町押小路角川田醫院へ　中村　みれ子
●佐賀縣佐賀市松原町馬贄馬場へ　菅野　雪子
●廣島市宇品町御幸通四丁目へ　關野　秀子
●韓國京城竹洞赤門前へ　高橋　ゆう子
●本郷區森川町一、表北裏乙ノ九十一へ　横山　務子
●本郷區駒込千駄木町五十七へ　深井　てる子
●深川區中島町五へ　増田　乙二子
●越後三條町病院へ　竹中　成德
●仝　所　竹中　もと子
●芝區伊皿子町七十へ　岸　道　子
●清國漢口大冶鉄山へ　西澤　好子
●麹町區飯田町二丁目へ　中原　敬子
●赤坂區青山北町七ノ一へ　森　君　子
●芝區白金志田町八十三へ　原田　道子
●京橋區加賀町一へ　渡邊　てる子
●小石川區小日向水道端二ノ三十三へ　村上　靜子
●府下荏原郡大井村字金塚へ　土屋　もと子
●神戸市奥平野村三一四ノ一へ　三田　あさ子
●牛込區市谷田町一ノ七へ　鹿野　留子

●本會々員改姓

塚原　ゆう子改　高橋　ゆう子
横堀　乙二子改　増田　乙二子
伊藤　とり子改　吉居　すゑ子



交換寄贈雜誌（拾月分）

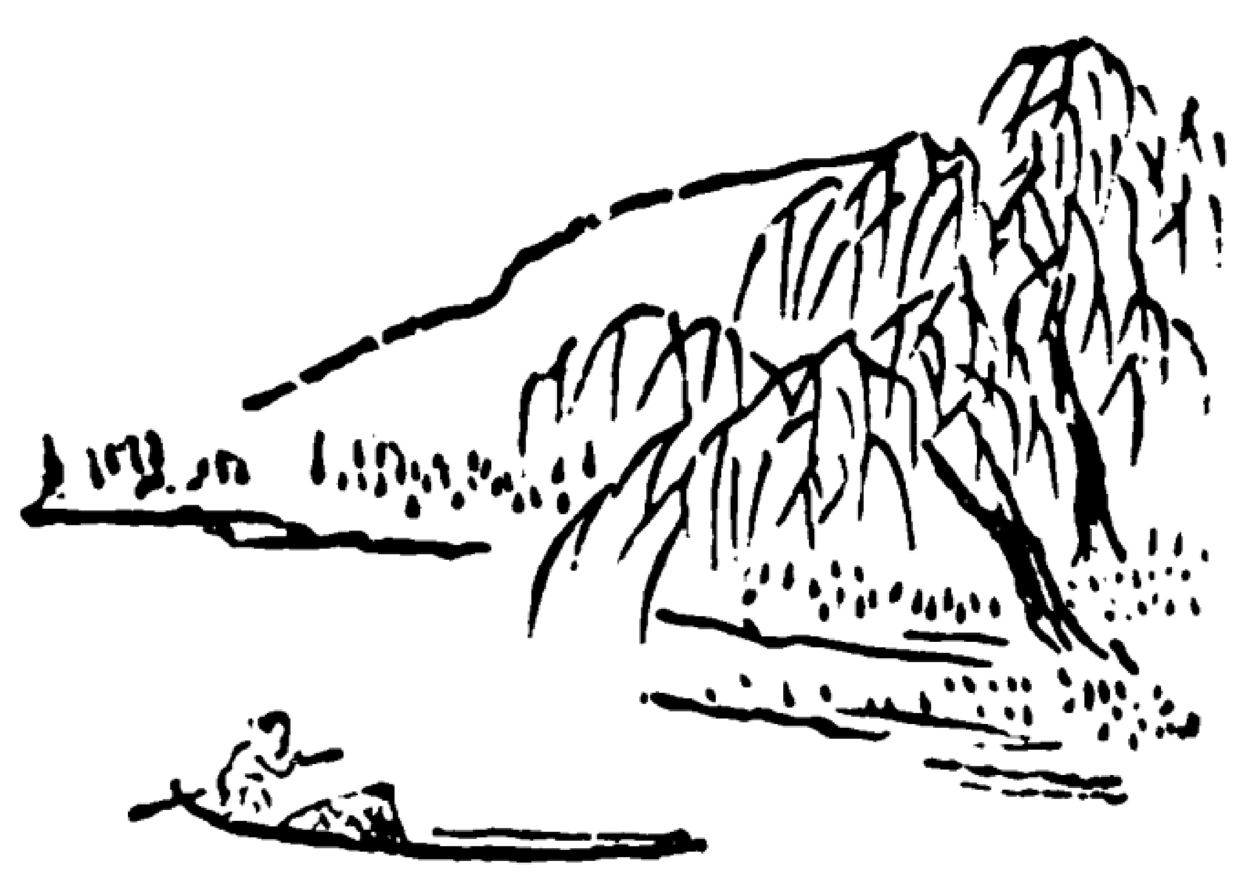
●日本赤十字　京橋區築地二ノ二十一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村常盤松御料地内　帝國婦人協會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會
●日本橋區衛生協會雜誌　日本橋區永久河岸八　日本橋區衛生協會
●日本改革時報　本所區表町五十七　益世社
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文館
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區楓町四　東京藥事新報社
●東京教育雜誌　神田區錦町一ノ二十　東京教育雜誌發行所
●東京市教育會雜誌　東京市役所内　東京市教育會
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二十九　東京小間物化粧品卸商事務所
●旅行倶樂部　麹町區永田町二ノ七十三經濟新報社内　旅行倶樂部
●をんな　麹町區下二番町三十七　大日本女學會
●大阪醫學會雜誌　大阪市東區淡路町一ノ卅八　大阪醫學會
●大阪タイムス　大阪北區天神橋筋六ノ五十八　大阪タイムス社

●家庭新聞　熊本市内坪井町五十八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町區元園町一ノ廿七　由分社
●家庭　東京巣鴨二ノ二五五　家庭社
●家庭　福岡市船町十七　家庭新聞社
●萬問答誌　茨城縣筑波郡板橋村大字南太田七三八　萬問答社
●大日本婦人教育會雜誌　麹町區永田町一ノ十九　大日本婦人教育會
●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
●通俗衛生　大阪市四區土佐堀通三ノ廿九　大阪私立衛生會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊郡上屋敷町六十五　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大阪市四區江戸堀下通三ノ卅六　藥石新報社
●藥業新報　福井市佐佳枝上町百十一　藥業新報社
●藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社
●經濟新報　麹町區永田町二ノ七十三　經濟新報編輯部
●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新報社
●婦人世界　大阪市南區末吉橋通四ノ六十三　浪華婦人會
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人新報　赤坂區榎坂町五　婦人新報社
●婦人と子供　本郷女子高等師範學校内　フレーベール會

●佛教婦人　東京巣鴨二二五五　家庭社編輯部
●福田會月報　麻布區麻布笄町百三　福田會育兒院
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手ノ杖　大阪市北區西野田新家西ノ町番外三二五　工手ノ杖新聞社
●交通世界　埼玉縣浦和町三九三五　交通協會
●衛生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衛生會
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町二一七　越佐教育雜誌社
●衛生談話　麹町區飯田町四ノ三十一　通俗衛生茶話會
●英學生　神田區駿河臺北甲賀町　東西社
●衛生新報　下谷區池之端仲町十九　衛生新報社
●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●あはれみ　府下北豊島郡巣鴨上字上駒込十九　動物虐待防止會
●產科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　產科婦人科學會
●音樂新聞　大阪市南區心齋橋筋二ノ百七　音樂新聞社
●產科婦雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產科婦協會
●埼玉衛生新誌　埼玉縣北足立郡浦和町二三五　埼玉衛生新誌社
●躬行會叢誌　芝區三田町網一　躬行會叢誌出版部
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室内　日本神經學會
●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社

▲季節柄凍傷の御注意

耳鼻手足等は最も凍瘡にかゝり易き故に外氣中に出るに當つては常に頭巾耳覆手袋足袋等を用ひ此等の部を温包せざるべからず手袋靴下には厚き毛編製を良とす靴は革製よりも寧ろ藁靴を用ふべし耳は帽垂又は特別製の耳覆を用ふるも可なり鼻は襟巻にて被覆すべし短時寒氣に暴さるゝ時と雖も輕忽に此等の注意を怠るべからず眼鏡其他金屬製のものを皮膚に直接せしむる必要あるときは豫め摩擦して發温せしめ後用ふべし又手足を濕すときは凍瘡にかゝり易きを以て直に拭ひて乾燥せしめ濕潤せる手袋靴下靴等は直に脱すべし血行障害を來たし知覺鈍麻する時は其部を能く摩擦して發温せしむべし温度出づる時は温度に浸し或は火に當つるも妨なし尤も將に凍んとする部を温湯に浸し或は火に當つるが如き事は不可なり



私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會員は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢 通常會員金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

醫學博士 弘田長先生校閲
文學士 上田敏先生序
醫學士 唐澤光德先生著

育兒の話

全一冊 正價金五十五錢 郵稅金六錢

この本は醫科大學の唐澤醫學士が最も親切に言文一致の體を以て小兒養育法を述べられましたもので。總ふりかなと多數の圖畫が御座いますから育兒法の素養のない方でもよくわかります是非子供衆のある家庭には一冊御備へ置きを願ひます

東京市本郷區龍岡町

吐鳳堂書店

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は清潔質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ清潔質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ス●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立 事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に設く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を設く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員の質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望んとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に準じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發端を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月拾五錢を納むると●男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●衛生學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講演談話又は之に關したる實驗等かも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他其の必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す　但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得　但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より會員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の會員物品を無料事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條　特に此規則に掲げざる者は本會の規則を適用す

●事務所　高崎市寄合町五十番地

高崎支會

ジャパンタイムス記者 吉川潤二郎譯述

人生の行路

雜誌日本人評 近來嘖々の好評ある人生の行路第二編には品性の修養を說けり要するに偉人は如何にして其の人格を作りたるかに關して最も興味ある種々の例證を擧げて叙述し精力の發展と進步的生活法を說きたるものにして譯筆の輕妙と流暢と多趣味なるとは論說の中知らず識らず人格の何物たるかを教訓して盡さゞる所なし

第三編 生活の趣味（近刊）

第一編（第六版）第二編（第五版）▲定價各冊金參拾錢郵稅四錢宛

▲應用骨相學 價廿五錢 郵稅四錢

故陸軍步兵中尉功四級工學士市川紀元二氏の遺著骨相學を人事に應用する方法を說きて旁ら兒童教育の方針に及び又勇士絕好の紀念たり

博士スマイルス原著
文學士若月保治譯述

勤儉論

定價四拾錢郵稅四錢

戰後に於ける我が國民の必ず力行せざるべからざること少からずと雖も勤儉の如く痛快なるものなかるべし是れ本會が今日特に此の書を發行する所以なり此の書は博士スマイルス氏の著述中自助論品性論職分論と併せて四大著と稱するものにして勞働の神聖を說き人は獨立を維持せんが爲めに又其家族の爲めに遠く將來を慮りて必ず幾分の貯蓄を爲さゞるべからざる所以を述べ以て高潔眞面目なる生活を營み恐るべき飲酒の弊害より免れしめ更に進みて道德を高め宗教に安住の地を見出すことを得しめんとするに於て盡さゞる所なし即ち此書の發行以來英國到るところの貯蓄銀行に於ける預金の額これより著しく增加したりといふ本書の價値以て想ふべきなり幸に我が國に於ても亦本書に依りて多少裨益する所あるを得ば啻に本會の喜びのみに非る也

▲スマイルス博士原著 文學士若月保治譯述 職分論（好評第六版）全四冊定價郵稅共 金壹圓五十錢

▲家庭之友 十月三日發行 三卷七號

日本の家庭に對する希望（メリス博士カーネギー夫人、エネトン卿、クーツン夫人）三笠を弔ふ 英詩（メリス博士夫人）小兒の食物 侍醫加藤照麿氏 西洋戸棚（口繪）○家屋間取圖○家政青見問答○諸國名物料理○海邊の生活○勝振の農園外數項 ▲定價郵稅共六錢 一年分十二冊前金六拾錢（見本郵券六錢）

本田增次郎編 泰西女訓 價四拾錢 郵稅四錢

片山寬著 英語の手紙 價貳拾錢 郵稅二錢

羽仁もと子著 育兒の栞 價拾五錢 郵稅二錢

嘉悅孝子編 料理法 講習筆記 價貳拾錢 郵稅二錢

發兌書目 往復葉書にて御申込の方に進呈

◉版元 東京本鄉區駒込西片町十番地（電話下谷二千四百五十三番）內外出版協會

拜啓 去今拾三年前川上元治郎君の紹介を以て不肖就職爾来五ヶ年間經營致候當病院儀不肖北海に轉候後兎角不運打續候處今回當地有志諸氏空前の奮發を以て町税補助、醵金其他最好意的條件の下に再興の事となり不肖の就任を希望致候間此地に居をトする事と致候多年志向不定愧入候得共不相變御愛顧被成下度奉願候當地情況一班御笑草迄に申上候早々

明治三十八年九月十一日開院（初老誕生日）

越後三條町病院　竹中成憲
（受電エチゴサンゼウタケナカ）
同　許子

一戸數…………參千
一人口…………一萬六千
一町税…………武萬參千圓
一東京へ…………九拾九里
一東京へ…直行汽車…拾參時間
一新潟へ…………拾壹里壹時四拾分
一積雪…………例年平均武尺
一新發田へ…………拾六里
一汽船…………信濃川を往來す
一直江津へ…………武拾五里
一停車場…………三條、一ノ木戸二個あり
一電信…………午前六時より午後拾時迄

△工業（壹ヶ年額）
一中形染及裏地…四拾武萬圓●八拾武萬圓●鐵器（金物）
　　　　　　　　●足袋…拾五萬圓●食川

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑塗箱入送費九錢）　六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する塲合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り每月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

明治三十八年十一月二十日印刷
仝年十一月二十四日發行（每月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第百九十二號

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場